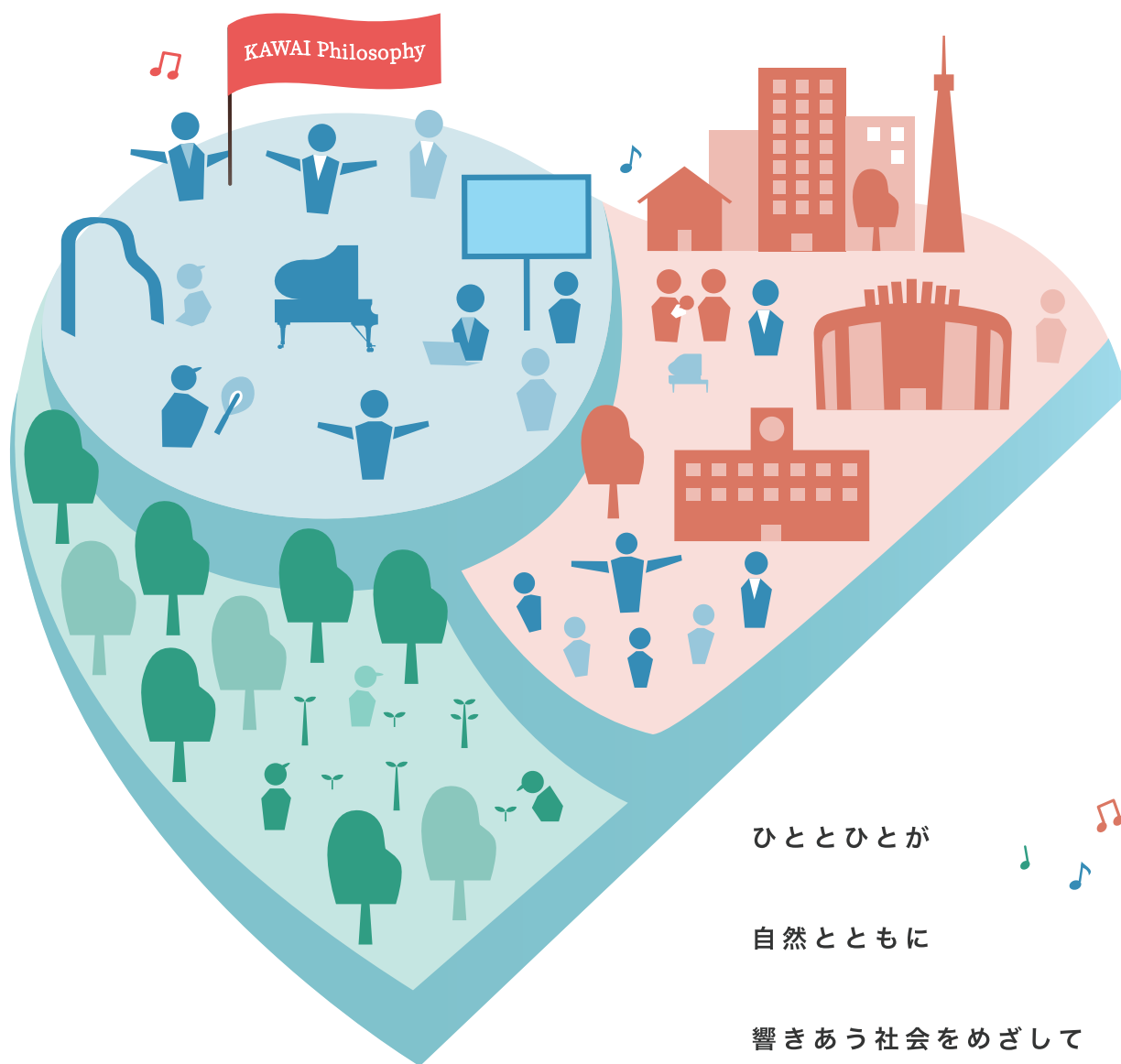


KAWAI Report

2025 Sustainability

KAWAI



トップメッセージ

KAWAI Philosophy制定

「音楽を通じて人々の人生を豊かに彩る」



ひととひとが自然とともに 響きあう社会をめざして

自然の恵みから「製品」をつくり

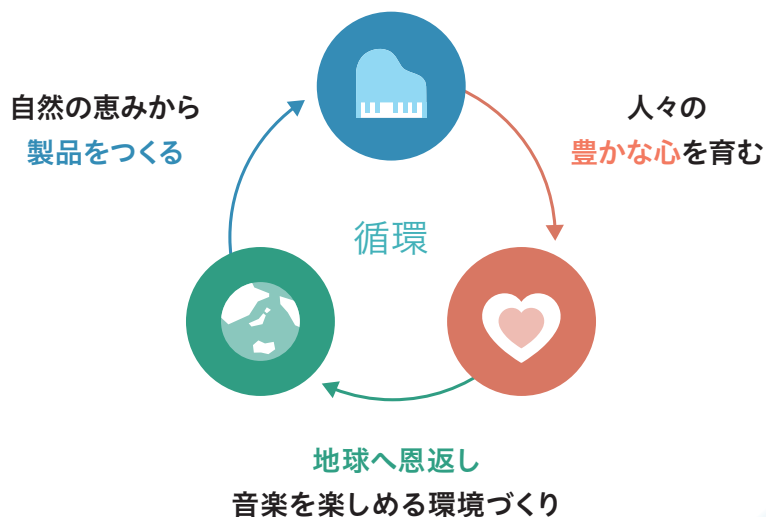
ひととひとの「豊かな心」を育むサービスを提供し

「地球」へと恩返しをしていく。

私たちが目指すサステナビリティは

それぞれが循環してより良い効果が響き合う

社会づくりに貢献していくことです。





目次

Introduction

カワイグループのあゆみ	3
トップメッセージ	5
「KAWAI 十年の計」ダイジェスト	8
サステナビリティ経営	10
マテリアリティ	12

Environment 環境

環境負荷低減	15
資源循環	19
植林・植樹	20
気候変動	21

Social 社会

文化貢献	25
教育・育成	27
人財育成	32
ダイバーシティ	33
ワークライフバランス	34
健康経営	35
労働安全衛生	36
品質・顧客満足	37

Governance ガバナンス

コーポレート・ガバナンス	39
リスクマネジメント	43
コンプライアンス	45

Related Information

財務・非財務データ	46
社会とともに歩む ～地域・文化・人をつなぐ活動～	47
会社情報	49
第三者意見	50



カワイグループのあゆみ

変えてはならないものを次代に継承する — それは創業時から脈々と流れるピアノづくりにかける熱い想い。
 変えるべきものは大胆に改革する — それは最先端の研究開発による素材や設計の見直し。
 90年の歴史を重ねた「KAWAI」 — 愛され、選ばれるブランドを目指して、さらに挑戦を続けます。

1927年～黎明期 世界一のピアノを日本で



1927年、河合小市が仲間と共に創設した「河合楽器研究所」。工場とも呼べない小さな倉庫からの出発であったが、そこには「ピアノづくりにかける熱い想い」という大きな資本があった。庶民には手が出なかったピアノのイメージを覆す、安さを求めて性能は妥協をしない姿勢、それはまさに技術者としてのプライドだった。

1928年 ピアノ第一号機発売



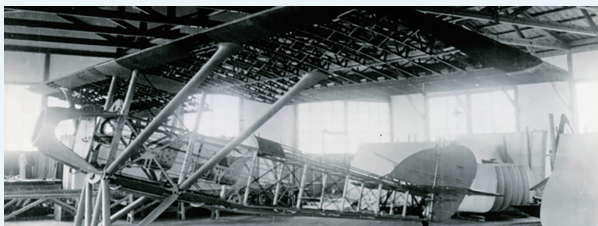
「カワイピアノ第一号機『昭和型』」カタログ グランドピアノ第一号機『平白1号』カタログ

創立 1927年

1927 — 1954年

1938年

第二次世界大戦中 軍需工場と化したピアノ工場



「会社再建は我々の手で」 — 苦難を乗り越えて、1948年にはピアノ・オルガンの製造再開にこぎつけ、1950年には戦後初のグランドピアノ500号が製作された。「楽器を売る前にまず技術を売れ」という小市の精神なくして、今日のカワイは語れない。



初代社長
河合小市

1955年～戦後の復興から世界へ羽ばたく



2代目社長
河合滋

「音楽は万人のもの」の理念の下、1956年に開始した「カワイ音楽教室」は、楽器の需要創造と音楽文化の発展を目指すものだった。さらに、直営店制度への移行を開始し、直営販売の礎を築いた。

1956年 開始当時のカワイ音楽教室



1959年 直営ショップ第一号店



1955 — 1988年

1980年

当時のグランドピアノ専門工場としては世界最大規模を誇り、また最新設備による優れた生産能力を備える一方で、熟練の職工による昔ながらの手作り工程「原器工程」を有するカワイ竜洋工場を建設。



1985年

「フルコンサートピアノ EX」は世界で最も権威ある、ショパン国際ピアノコンクール公式ピアノに認定され、ワルシャワ国立フィルハーモニーホールのステージに立った。「KAWAI」がトップブランドになった瞬間であった。



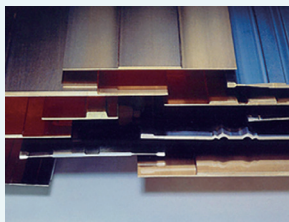
第12回ショパン国際ピアノ
コンクール (1990年)

1989年～守るべきもの 変えてゆくもの



3代目社長
河合弘隆

社長就任以降、弘隆は「温故知新」の精神を軸に、異形金属板の製造技術を活かした金属事業や、ピアノ鏡面塗装技術のノウハウを活かした塗装事業といった新事業の芽を育んだ。世界的視野を持った活動により企業として本格的な世界進出も図った。



複数形状を可能にした圧延異形版



高級車の内装用パネル塗装

バブル崩壊以降、経営環境は大きく悪化した。生き残りを迫られた弘隆は、今こそ主軸であるピアノ生産・販売を見直すことが重要であるとして、インドネシアや中国での生産拠点・販売会社の設立など海外市場に目を向け、また国内では楽器販売・ピアノ調律・音楽教室が互いに支え合う三位一体体制を導入し、息を吹き返すことに成功した。



インドネシアの電子楽器製造工場



中国のピアノ部品製造工場



楽器販売、音楽教室、調律事業の三位一体体制を確立

1989 — 2023 年

2024 年 —

カワイサステナビリティのあゆみ

公害防止の時代を経て、地球環境保全のため環境活動に取り組むと共に、音楽文化の発展やグループ全体のサステナビリティ活動も推進。

1994年

全社的な環境推進組織の
地球環境委員会発足



地球環境保全のため地球環境憲章を制定し地球環境委員会が発足

1997年

竜洋工場が ISO14001
認証取得 楽器業界で世界初



地球環境にやさしい工場を目指し竜洋工場に環境マネジメントシステムを導入

2007年

「カワイの森」
インドネシア植林事業開始



創立80周年の記念事業として社員の有志により「カワイの森育成会」を設立

2017年

「Shigeru Kawai
国際ピアノコンクール」を創設



次世代ピアニストの育成と音楽文化振興のため「Shigeru Kawai 国際ピアノコンクール」を創設

2023年

持続可能な社会の実現に向け
サステナビリティ委員会発足



グループのサステナビリティ活動推進のためサステナビリティ委員会を設置

トップメッセージ

音楽を通じて
人々の人生を
豊かに彩る

代表取締役社長 執行役員
河合健太郎



昨年、代表取締役社長に就任いたしました河合健太郎です。就任以来、「カワイがこれからどのような方向へ進むべきか?」を深く考えてきました。国内外の拠点を訪問し、社員や関係者の皆様と対話を重ねる中で、カワイにしかない出来ない使命や、100周年を超えて目指すべき姿、そして

カワイが提供すべき価値がより明確になってきました。2025年度からは、新たに制定した「KAWAI Philosophy」のもと「人生を、響かせる。」というミッションを掲げてまいります。音楽を通じて、より多くの人々の人生を豊かに彩ることを目指します。

KAWAI Philosophy

Mission

日々果たすべき使命

人生を、響かせる。



Vision

目指す未来

100年後もつづく、音楽文化を。

子どもにも大人にも、
音楽のたのしさを伝え、人生に寄り添う。
誰もが自分を、自分らしく表現できるように。
そして、世界中の日常が
あたたかい音色で彩られますように。

Values

提供する価値

- ・家族のような親身さで寄り添う。
- ・真面目に考え、真面目につくる。
- ・アナログをあえて残しつつ、日々進化する。
- ・その人らしい音色を生む。
- ・あらゆるシーンで、ピアノとの会話を提供する。

Credo

大切にすべき精神

- ・伝統を守り、新しいことを取り入れよう。
- ・いろいろな視点でアイデアを出そう。
- ・やらまいか精神で、まずやってみよう。
- ・相手がうれしいと思うことをしよう。
- ・理想を高く持ち、愚直にやりつづけよう。
- ・遊び心を持って、仕事をたのしもう。

KAWAI Philosophy

「KAWAI Philosophy」は、日々果たすべき使命、目指す未来、提供する価値、そして社員一人ひとりが大切にすべき精神を明確に示したものです。

● ^{ミッション} Mission (日々果たすべき使命):「人生を、響かせる。」

カワイの楽器やサービスは、世界中の人々の日常にあり、様々な感情と共にあります。私たちは、どんな時でも寄り添い、人生を響かせる存在でありたいと願っています。それが私たちの使命です。

● ^{ビジョン} Vision (目指す未来):「100年後もつづく、音楽文化を。」

カワイは、創立100周年を迎える2027年を重要な節目と捉え、その先の未来を見据えています。カワイがこれからも音楽とともに歩み、人々の暮らしの中で音楽が当たり前の日常を根付かせていくという決意を表しています。世界一のピアノづくりを目指し、100年後も音楽文化を支え続ける企業でありたいと考えています。

▶ KAWAI Philosophy 特設サイト
<https://www.kawai.co.jp/company/philosophy/>



● ^{バリューズ} Values (提供する価値)

カワイは創立以来、誠実なもののづくりを基本に、品質へのこだわりを追求し続けています。生産から販売、教育事業、調律まで一貫した体制を構築し、製品とサービスの両面でお客様に最高の価値を提供しています。時代の変化に柔軟に対応しながらも、“大切なものは守りつつ、新しいものを取り入れる”柔軟さを持つこと。それが、カワイがこれまで歩んできた道であり、これからも進むべき道です。

● ^{クレド} Credo (大切にすべき精神)

まずやってみよう!という“やらまいか精神”は、浜松の言葉であり、カワイのDNAとして脈々と受け継がれています。私たちは挑戦を恐れず、常に新しい試みに積極的に取り組むことで、数々の革新を生み出してきました。社員一人ひとりがこの精神を胸に、未来に向けた新たな価値創造に挑戦し続けます。

音楽文化の継承と持続可能な社会への貢献

カワイは「KAWAI Philosophy」を基盤に、持続可能な成長を目指し、サステナビリティ経営を推進してまいります。社会環境が大きく変化する中で、企業が持続的に成長していくためには、社会との共生が不可欠です。

当社のサステナビリティ経営において、特に重視しているのは、音楽文化の継承と発展です。音楽は世代を超えて人々の心を豊かにし、感動を生み出す力を持っています。その力を未来へつなぐため、音楽教育の場を広げるとともに、次世代の音楽家や調律師の育成にも力を注いでいます。グローバルに展開する音楽教室の充実や、国内外におけるピアノコンクールの支援を通じて、誰もが音楽を学び、楽しめる環境づくりを進めています。

また、気候変動への対応は、企業の社会的責任として極めて重要な課題です。再生可能エネルギーの導入拡大や製造プロセスの省エネルギー化を推進し、カーボンニュートラル

の実現に貢献してまいります。

調達面では、サプライチェーン全体における持続可能な調達を推進し、公正な調達方針に基づいた事業活動を徹底してまいります。

さらに、人的資本の強化も重要な課題の一つです。多様な人財が活躍できる環境を整備し、社員一人ひとりの成長を支援する教育・研修プログラムを拡充してまいります。また、働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスを尊重した柔軟な就業環境の整備を通じて、社員が最大限の能力を発揮できる企業文化の醸成に努めてまいります。

音楽を通じて社会に貢献し、次世代へ向けた持続可能な価値を創造するために、変化する社会環境の中でも、誠実なもののづくりと挑戦を続け、世界中の人々の人生を豊かにする企業であり続けることをお約束いたします。



「世界一の鍵盤楽器メーカー」を目指して

2027年に迎える創立100周年、そしてその先の未来に向けて、中期経営計画「KAWAI 十年の計」を策定いたしました。これは、今後10年間を見据えた当社の羅針盤となるものです。

今後、社会のデジタル化が加速する一方で、リアルな体験へのニーズは一層高まると見込まれます。鍵盤楽器市場には依然として大きな成長余地があり、新興市場の開拓や新規事業の創出に依存することなく、既存事業の強化によっても十分な成長が可能だと確信しています。

鍵盤楽器市場では、10年後も成熟市場が大きな割合を占めると予想されることから、成熟市場における高付加

価値化とシェア拡大を最重要課題と位置づけています。この取り組みには時間を要しますが、戦略を着実に実行することで、10年後には確かな成長を実現できると見込んでいます。そのうえで、さらなる将来を見据え、新興市場の開拓や新規事業の創出にも積極的に挑戦してまいります。

カワイは「KAWAI Philosophy」のもと、音楽を通じてより多くの人々に豊かな人生を届け、サステナビリティ経営を推進し、社会と共に持続的に成長していくことを目指してまいります。今後とも、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「KAWAI 十年の計」ダイジェスト 第8次中期経営計画 (2025年4月～2025年3月)

当社は、主力事業である楽器教育事業において、成熟市場でのシェア拡大や新興市場の開拓を見据えた中長期的な成長を目指し、従来の3年間の中期経営計画では対応が難しい課題に取り組むため、10ヶ年計画を策定いたしました。

※本レポートでは、計画の一部を抜粋したダイジェスト版として掲載しています。なお、本資料に掲載している図表やデザインは、既報の内容と一部異なりますので、詳細につきましては、2025年3月19日に公表した中期経営計画の資料をご参照ください。

▶中期経営計画資料

https://www2.kawai.co.jp/ir/setsume/pdf/2025/20250319_2025chukei.pdf



「KAWAI 十年の計」で実現したいこと

「世界一の鍵盤楽器メーカー」になる為に、今後10年間で鍵盤楽器事業を大きく成長させます。同時に、持続的な企業価値の向上を目指し、次なる成長エンジンの構築を行います。



今後10年間の見立て

リアルなモノ・コトの需要増大

世の中のデジタル化が加速する一方、リアルなモノ・コトの需要が反作用的に増大し、鍵盤楽器や音楽／体育教室の需要は堅調に推移すると予想

鍵盤楽器のシェア向上で大きな成長

鍵盤楽器のシェア向上余地が大きいことから、新興市場の開拓や新規事業の創出に頼らなくても、鍵盤楽器のシェアを高めることで当社として大きな成長が可能

「経営基盤強化」を図りつつ「鍵盤楽器成長戦略」を成長戦略の根幹と位置づけ、「更上戦略」でより一層の成長を狙います。

03 更上戦略

鍵盤楽器販売以外の領域においても、各事業セグメントで以下の戦略を実行し、更なる成長を実現させる

楽器教育			
音楽教室の 海外展開の加速	国内音楽教室の講師養成所設立 による講師数 / 生徒数の増大	体育教室の 海外展開	ミニピアノの 海外展開
素材加工		その他	
金属加工事業の営業力強化による 新規大規模案件の獲得		IT サービス事業の BtoB ソリューションの拡大	

02 鍵盤楽器成長戦略

- 鍵盤楽器市場は10年後も市場規模の8割超は成熟市場（欧州 北米 日本 中国）が占めると予測する為、成熟市場における製品の高付加価値化とシェア拡大が最重要課題
- ピアノ / 電子ピアノの「品質向上」「ブランド認知度向上」「販売チャネル増強」等によって高付加価値化とシェア拡大を実現する（特に欧州と北米の戦略を強化）

01 経営基盤強化

- 「採用 / 育成の強化」「戦略的人事機能の強化」及び「労働環境の改善」により人的資本経営を強化する
- 「デジタル人財の採用 / 育成の強化」「テクノロジーを活用した業務効率化」及び「情報セキュリティ体制の強化」によって攻めと守りの両面から経営基盤を強化する
- 持続的成長と株主還元とのバランスをとったキャピタルアロケーションを実行し、資本効率を継続的に改善する

資本効率改善

持続的成長と株主還元とのバランスをとったキャピタルアロケーションを実行し、資本効率を継続的に改善します。

株主還元強化

累進配当と総還元性向50%以上を継続します。

キャピタルアロケーション計画（1～3年目累計）

原資	用途
営業 CF 115 億円	定常投資 60 億円 ● 生産 / 物流関連の既存設備の更新 ● 情報システム関連の更新 等
自己資金 47 億円	成長投資 90 億円 ● インドネシア電子ピアノ生産工場の建設 ● 直営店の開設 / リニューアル ● 既存ディーラーの M&A ● カワイ研究所の建設 ● 生産効率化の為の設備導入 等
資金調達 60 億円	借入返済 43 億円 株主還元 29 億円 ● 累進配当を継続 ● 総還元性向 50% 以上を毎期実現

サステナビリティ経営

当社のビジョン「100年後もつづく、音楽文化を。」を実現するために、マテリアリティ（持続可能な成長のための重要課題）ごとのマネジメントを強化し、持続可能な成長に向けてサステナビリティ経営を推進してまいります。





KAWAI Philosophy の Vision「100年後もつづく、音楽文化を。」の実現に向け、より良い楽器づくりと音楽文化への貢献を目的とした企業活動を通じて、地球環境・社会との調和、さらには経営の健全性を確保することにより企業としての持続的な発展に努めるとともに、お客様をはじめとした全てのステークホルダーの皆様と協働して持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



Environment

各事業分野でグローバルな視野に立って地球環境と資源を守るとともに、真に豊かな心と社会の実現に尽くしてまいります。



Social

継続して音楽文化発展に貢献していくことで、豊かでうまい社会の実現を目指し、全てのステークホルダーの皆様との良好な関係を構築してまいります。



Governance

持続的な企業価値の向上を実現するため法令やその他のルールを遵守し、健全かつ透明性の高い経営の実現に取り組んでまいります。

カワイグループは、サステナビリティ方針を定め、中長期的な企業価値の向上に努めてまいります。

サステナビリティ推進組織

カワイグループは、経営課題の一つにサステナビリティを定めています。持続可能な経営に関わる諸課題（サステナビリティ課題）に対して、経営環境、企業価値への影響等を踏まえ、グループ全体のサステナビリティ活動の推進を目的とし、サステナビリティ委員会を取締役会直下の組織として設置しています。また、サステナビリティ委員会の下部組織としてサステナビリティ推進部会を設置し、各部会が委員会の決定に基づき、事業統括部門・グループ会社の具体的活動を推進しています。

サステナビリティに係る重要事項はサステナビリティ委員会にて審議を行った上で定期的に取締役会に報告を行っています。

SDGs に対する取り組み

2015年9月に開催された「国連持続可能な開発サミット」において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、このアジェンダに記載された持続可能な開発目標（SDGs:Sustainable Development Goals）は、17の目標と169のターゲットで構成され、2030年までに達成すべき目標として掲げられています。

本誌では、関連する取り組みを記載したセクション毎に、該当するSDGsアイコンを付与しています。

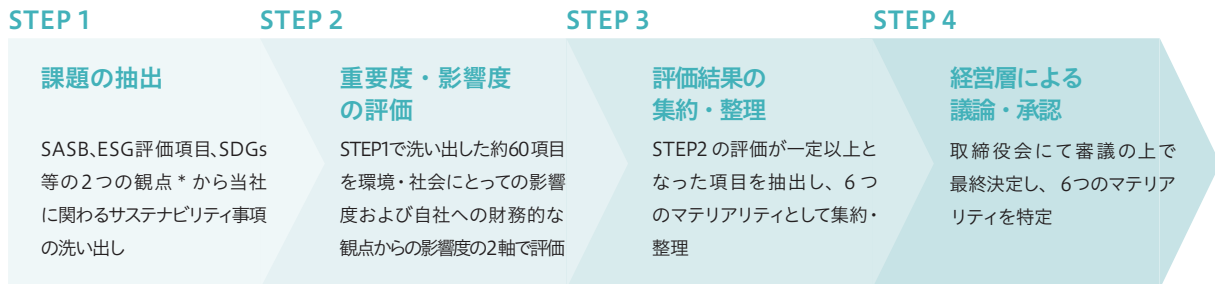
カワイでは事業活動を通じ、関連する目標はもとより全ての目標達成に向け、更に対応を進めてまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



マテリアリティ 持続可能な成長のための重要課題

マテリアリティ特定のプロセス



* 観点1. サステナビリティ情報開示基準（SASB等）や、ESG評価機関の評価項目等に関連する事項。観点2. SDGsや社会課題に関連して、当社固有の活動が環境・社会・経済に一定のインパクトを与えている（与える）事項。

マテリアリティと目標

マテリアリティ	主な取り組み課題	中期経営計画期間における目標（2025年4月～2035年3月）
気候変動への対応	GHG排出量削減（Scope1,2,3）	● スコープ1&2のGHG排出量50%削減（対2016年）
人財育成と働きがいのある職場環境の整備	人財育成、技能習得支援	● 社内研修受講率100%（受講対象者ベース） ● 竜洋工場 カワイ作業員認定取得率30% ● 調律師 国家資格取得率100%
	働きがいのある職場環境づくり	● ワークエンゲイジメント指数*の継続的な向上（年1pt向上） * ストレスチェックの結果より算出
	DEI*の推進 *Diversity/Equity/Inclusion（多様性 / 公平性 / 包括性）	● DEI研修の継続的な実施 ● 女性管理職比率12.5%
	労働安全衛生の確保及び健康経営	● 労働災害発生率0% ● 健康経営優良法人認定におけるホワイト500の認定
音楽文化発展への貢献	ピアニストの育成支援	● カワイ音楽コンクールの継続的な開催
	地域での音楽文化振興	● カワイコンサートの継続的な開催 ● 工場見学の継続的な実施
	調律師の育成	● 調律師の継続的な輩出
品質・安全・顧客満足度の追求	品質、顧客満足度の向上	● 顧客満足度の継続的な向上
	AI/IoT等のデジタル技術の活用	● デジタル技術を活用した新製品 / サービス開発の促進
持続可能なサプライチェーンマネジメント	サプライチェーン上のESGリスク（労働問題、人権リスク）への対応	● サステナビリティ調達ガイドラインの策定 ● 本ガイドラインに沿ったサプライヤー評価実施
	取引先との協力、円滑な関係構築（人財不足、事業承継問題への対応）	
ガバナンスの強化	取締役会の実効性向上	● 実効性評価の毎年の実施と提言された課題への継続的な対応
	リスクマネジメントの実践	● リスクマネジメント体制の運用と重大なリスクへの対処
	災害リスクへの対応	● BCPの体制構築と有事を想定した訓練の実施
	サイバーセキュリティへの対応	● 情報セキュリティ基本方針の策定と情報セキュリティ管理体制の運用 ● セキュリティ強化のための訓練の実施
	コンプライアンスの維持、強化	● コンプライアンス強化のための継続的な啓蒙
	事業活動上の人権リスクへの対応	● 人権方針の策定 ● 人権DDの実施

Environment

地球環境の保全と資源の循環に向けた取り組みを推進し
環境負荷の低減と気候変動への対応を進めながら、
真に豊かな社会の実現をめざします

マテリアリティ



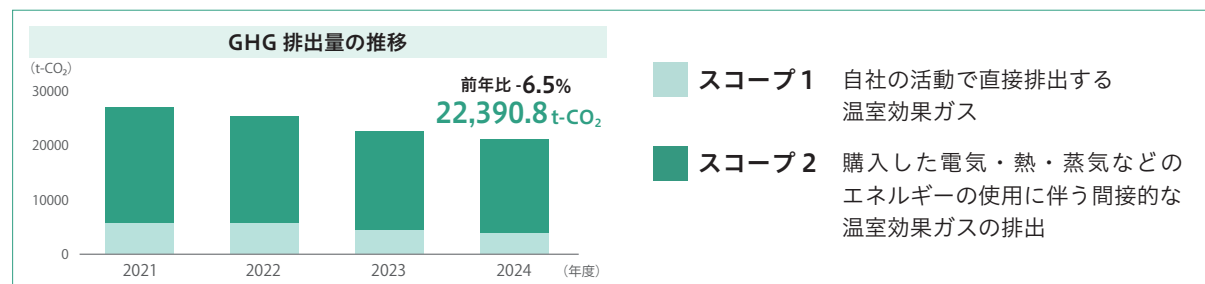
マテリアリティ	主な取り組み課題	中期経営計画期間における目標（2025年4月～2035年3月）
気候変動への対応	GHG 排出量削減（Scope1,2,3）	●スコープ1&2の GHG 排出量50%削減（対2016年）

関連する主な実績

GHG（温室効果ガス）排出量削減

カワイでは、地球温暖化対策の一環として GHG（温室効果ガス）排出量削減をマテリアリティ（重要課題）のひとつと捉え、事業活動に伴う環境負荷の低減に継続的に取り組んでいます。

特に、エネルギー使用の効率化や再生可能エネルギーの導入拡大などを通じて、GHG 排出量の抑制に努めており、昨年度のスコープ1およびスコープ2の合計排出量は22,391トンとなり、前年と比較して6.5%の削減となりました。

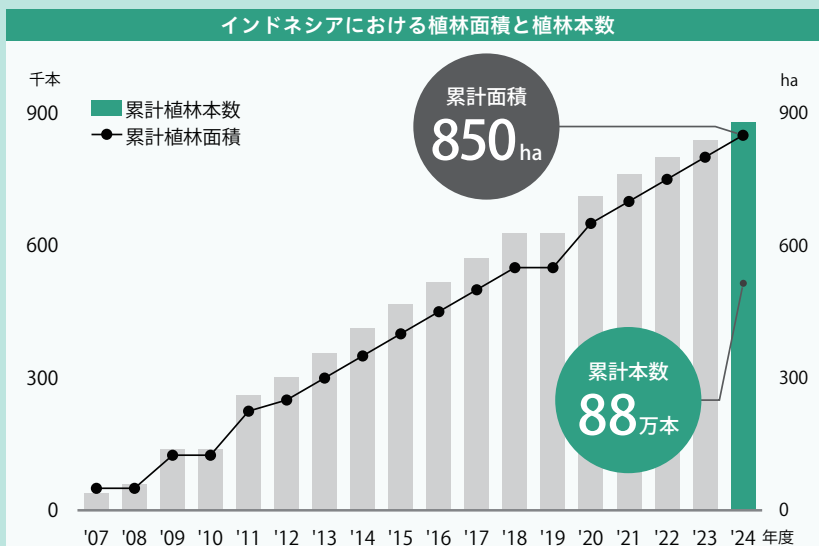




PICK UP! KAWAIの森

カワイは創立80周年の2007年、有志社員による「カワイの森育成会」を設立し、海外拠点のあるインドネシアで植林活動を開始しました。持続可能な木材確保やCO₂吸収源の創出を目的に、ファルカタやチークマホガニーなどの植林や、破壊されたマングローブ林の再生にも取り組んでいます。これまでに累計 850ha・88万本を植林し、年間約 12,800t の CO₂ 吸収が見込まれ、グループ排出量の 57%を相殺できると試算しています。

インドネシアにおける植林面積と植林本数



インドネシア「カワイの森」植林地



植林の様子

環境負荷低減

地球環境憲章

カワイグループは、すばらしい地球環境を後世に伝えるためには、総合的かつ継続的な取り組みが必要であると認識しています。世界の良き企業市民として環境の保全に努めつつ、人と地球にやさしい優れた商品を通じて社会からの信頼と共感を得ることができる道を進むために「地球環境憲章」を1994年に制定しました。

地球と人にやさしい企業をめざして

■ 基本理念

「人生を、響かせる。」を日々果たすべき使命とする私たちは、地球市民の一員として環境と資源を守ると共に、真に豊かな心と社会の実現に尽くします。また、グローバルな視野に立って地球環境にやさしい企業を目指します。

豊かな人間性や快適な生活環境の創造を
優れた研究、優れた技術、優れた商品の創造を
環境に優しい生産・流通・販売活動の創造を

■ 行動指針

1. 音楽文化産業として、各々の事業分野で人と音との良好な関係を築いていきます。
2. 様々な場面で、環境への影響を科学的な方法により評価し、必要な対応策を実施することにより、環境の保全と人の健康を守ります。
3. 資源の有効活用と省エネルギーの推進を図ります。
4. 製品の研究開発・設計段階からリサイクルと廃棄物発生量の減少を目指します。
5. 環境の保全活動に関し、国内外の要請に応え、地域との共生を目指して積極的に参画し、保護対策を実施します。

環境推進組織

環境経営を推進する組織として、1994年に環境担当役員を委員長とする地球環境委員会を設置し、環境保全に関する全社環境方針や目標を設定し活動しています。

地球環境委員会では、専門部会を隔月で開催し各サイトにおける環境目標に対する経過報告や取り組みの情報交換を実施しています。

また、サステナビリティ委員会内に設置された環境部会と連携し、持続可能な経営に関わる環境課題の解決にも取り組んでいます。

地球環境委員会 ※リスクマネジメント委員会内に設置



環境方針

カワイ地球環境委員会では「地球環境憲章」を受け「環境方針」を制定しています。

《有益な環境側面の発掘》《地球温暖化防止》《資源循環活用》《資源有効活用》《グリーン調達》等の推進に全社一丸となって邁進しています。

私たちは、楽器製造をはじめとする様々な事業の中で、環境への影響を配慮した活動を行い、地球環境の保全に向けた継続的な改善と汚染の予防に努めます。

1. 環境マネジメントシステムにより、環境負荷の低減や有益な環境側面を発掘し推進することを目標に設定するとともに、社会の期待や大きさに応じた定期的な見直しを実施します。
 - 1) 社会の期待と環境負荷に配慮した「製品、サービスの提供」「技術の開発」に努めます。
 - 2) 開発、生産、流通、販売、サービスなどの各部門において「地球温暖化防止」「資源循環活用」「資源有効活用」に努めます。
2. 必要な資源の調達・購入に際しては、より環境負荷の少ない材料・部品・製品を優先的に調達・購入します。
(グリーン調達)
3. 環境に関連する法規制を遵守するとともに、その他の要求事項を考慮して自主的な基準を設け、環境管理レベルの向上に努めます。
4. 環境教育を通じ、全社員の意識向上を図るとともに、一人ひとりが広く社会に目を向け、日常業務や日常生活の中で自主的な貢献活動ができるよう啓蒙と支援を行います。
5. この環境方針を達成するため、環境管理担当役員を総括責任者とした環境管理の組織、運営制度を整備し、目標・計画・施策・責任を明確にして環境保全活動を展開します。

環境マネジメントシステム

カワイグループでは環境マネジメントシステム ISO14001 の導入を推進しています。

現在、国内では竜洋工場、(株)カワイハイパーウッド、カワイ精密金属(株)が認証を取得し、(株)カワイ音響システムは、自己適合宣言を行っています。海外ではカワイインドネシア第1・第2・第3工場、上海カワイ電子、カワイ楽器(寧波)が認証を取得しています。

これらの事業所では環境マネジメントシステムで要求されている継続的改善のPDCAサイクル(計画・実行・検証・対応の繰り返し)をまわすため定期的に内部監査を実施し、進行状況や是正事項の確認を行っています。

また、認証取得事業所では、外部の認証機関による毎年のサーベランス審査及び定期的の更新審査において、環境マネジメントシステムが有効に機能していることの審査を受けています。

今後も、より一層の環境負荷削減のため、グループ全体への環境マネジメントシステムの導入に取り組んでまいります。

環境マネジメントシステム導入拠点一覧

導入年	導入拠点
1997年	竜洋工場 (ISO14001 認証取得)
2011年	カワイインドネシア第1・第2工場 (ISO14001 認証取得)
2012年	カワイ楽器(寧波) (ISO14001 認証取得)
2015年	カワイ精密金属(株) (ISO14001 認証取得)
2016年	(株)カワイハイパーウッド (ISO14001 認証取得)
2017年	(株)カワイ音響システム (ISO14001 自己適合宣言) カワイインドネシア第3工場 (ISO14001 認証取得)
2020年	上海カワイ電子 (ISO14001 認証取得)

グリーン調達ガイドライン

カワイグループでは必要な資源の調達・購入に際して、カワイ地球環境委員会の定める「環境方針」に基づき、より環境負荷の少ない材料・部品・製品を優先的に調達・購入するグリーン調達にグループ全体で積極的に取り組んでいます。

グリーン購入法やグリーン購入ネットワーク(GPN)の基本原則に準じたグリーン調達を推進し、環境負荷を総合的に低減することで、生物多様性の保全や循環型社会構築に積極的かつ継続的に貢献するよう活動しています。

■ 基本方針

1. 調達の必要性を十分に考慮し、
2. 品質や価格に加え環境に配慮し環境負荷ができるだけ少ない製品やサービスを、
3. 環境負荷の低減に努める事業者から優先的に調達する。

■ 適用範囲

- 事務用品、部品、原材料、設備などカワイグループが調達する全ての物品・サービス。
- ・ 事務所等で使用する一般品（用紙、文具、コンピュータ等機器類、作業着、印刷物等）
 - ・ カワイ製品（OEM 含む）に用いる部品・原材料（梱包材、付属品等を含む）
 - ・ サービス等（通信、その他の役務）

調達基準として、法律、関連団体の基準、社内基準を遵守することはもちろん、天然資源への配慮から省資源、省エネルギー、処分やリサイクルまであらゆる段階での環境配慮がされていることが規定されています。

サプライヤー選定時にも環境に対する管理状況や省資源・省エネルギーへの取り組み、環境情報の公開状況などの配慮事項を定めて、購買部門よりお取引先様に対応をお願いしています。

また、よりグリーン調達の実効性を高めるため、多言語の「グリーン調達基準書」を定めています。この「グリーン調達基準書」の周知のためにサプライヤーへの説明会を行い、サプライチェーン全体での環境負荷低減にも取り組んでいます。

▶カワイ グリーン調達ガイドライン

https://www2.kawai.co.jp/company/activity/pdf/kg_20040130.pdf



木材調達ガイドライン

ピアノ等楽器の製造において木材は重要な原材料であることを認識しています。持続可能な資源である木材の調達におけるカワイのポリシーを明文化しました。

■ 基本理念

カワイは、木を大切にし、保護・育成された森からの持続可能な資源である木材を、有効活用する、木材のグリーン調達を推進する。

■ 基本方針

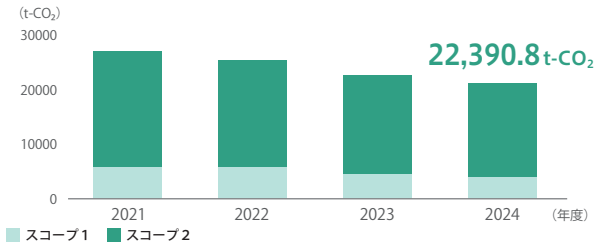
1. カワイは、持続可能な森林経営が営まれている森林から産出された木材を優先して調達する。
2. カワイは、木材調達において、森林を保全・保護・再生するという環境対策の推進や遵法に配慮する。
3. カワイは、調達した木材の適切かつ効率的な利用を推進する。
4. カワイは、再生材で生産された製品を優先して調達する。
5. カワイは、森林認証林産物等を優先して調達する。

GHG プロトコルに基づく温室効果ガス排出量算定

カワイでは、従来より国内事業所および海外生産系事業所を対象としてGHG排出量を算定・公表してきましたが、2021年度からはグループ全体に算定範囲を拡げ、より正確な排出量の把握と削減に取り組んでいます。

2024年度のGHG排出量は、22,390.8t-CO₂と前年度に比べ6.5%の削減となりました。

GHG 排出量の推移



環境負荷低減の取り組み

地球環境委員会では「省エネ法への対応」「地球温暖化の防止」や「資源循環と資源の有効活用」を目的とし、CO₂ 排出量と廃棄物排出量について売上高原単位の削減に取り組んできました。2022年度からの3ヶ年は、2021年度を基準年として毎年1%削減することを目標値と定め取り組んでいます。

2024年度の実績は、CO₂排出量原単位は2021年度比 5.4%減少となり目標を達成。廃棄物排出量原単位についても2021年度に比べ 7.0%減少し目標達成となりました。

指標	2020年度	2021年度 (基準年)	2022年度	2023年度	実績	2024年度 増減	評価
CO ₂ 排出量原単位 (kg-CO ₂ / 百万円)	294.9	255.5	234.6	232.1	241.8	-5.4%	◎
廃棄物排出量原単位 (kg/ 百万円)	25.0	23.4	23.8	25.0	21.7	-7.0%	◎
エネルギー量原単位 (MJ/ 百万円) * 参考値	5635.7	4907.3	4477.4	4421.7	4641.4	-5.4%	-

評価 ◎：達成 ×：未達成

地球温暖化防止の取り組み

カワイグループでは地球温暖化防止の取り組みを環境経営の重点項目と位置づけ、省エネルギー施策を実施することによって、エネルギー使用によるCO₂排出量の削減を推進しています。

- ・ 省エネルギーに配慮した工場設備の導入
- ・ LED 照明への更新
- ・ 再生可能エネルギーの導入
- ・ 電力会社と共同の定期的な省エネ診断の実施

太陽光発電による再生可能エネルギーの利用

2024年8月、当社の金属事業を担うグループ会社であるカワイ精密金属(株)松本事業所に太陽光発電設備を導入いたしました。2022年12月の竜洋工場への導入につづき、2件目の取り組みとなります。

松本事業所に導入した太陽光発電設備の年間発電量は約65MWh で、松本事業所全体の消費電力の約2%に相当します。2024年度のグループ全体の発電量は771MWh となり、これにより CO₂ 排出量は年間約351t 削減されました。



太陽光発電設備を導入したカワイ精密金属(株)松本事業所

グループ全体の発電量

発電実績

771 MWh

削減された CO₂ 排出量

351 t-CO₂

▶カワイグループ会社が工場に太陽光発電設備を導入
(ニュースリリース)

<https://www.kawai.co.jp/newsimg/20240823/>

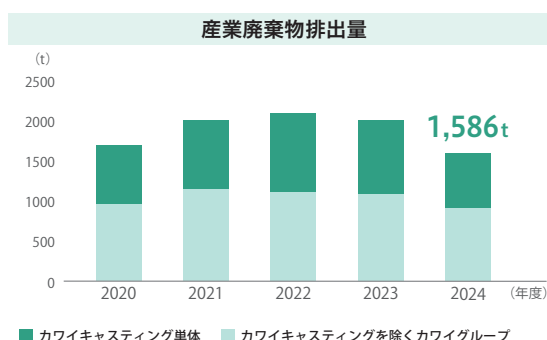


資源循環

産業廃棄物排出量の削減

カワイグループの産業廃棄物排出量は、2012年度にピアノフレーム製造の(株)カワイキャストिंगがグループの一員となり、鋳物製造時に生じる大量の鋳さいが廃棄物として排出されたため、3,203tにまで増加しました。その後、生産ラインの合理化や生産効率の改善に取り組み廃棄物排出量の削減に努めてまいりました。

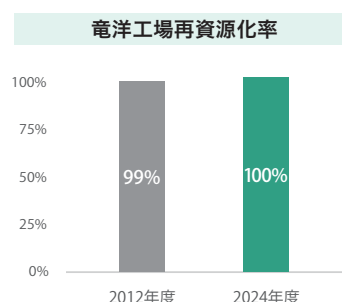
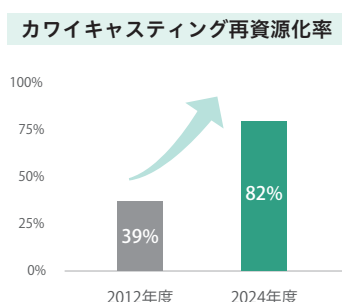
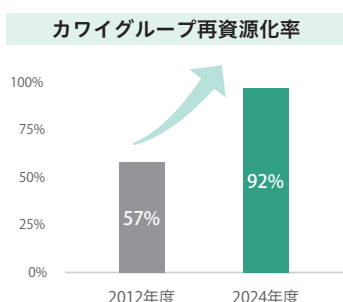
2024年度のカワイグループ全体の産業廃棄物排出量は、1,586tと前年度から20.7%減少しており、2012年度比では50.5%削減、3ヶ年計画の基準年（2021年度）に対しては20.7%削減となりました。



再資源化の取り組み

2012年度の(株)カワイキャストिंगの再資源化率は39%でしたが、鋳さいの路盤材などへの活用を進めたことにより、2024年度には82%に改善しています。これに伴い、カワイグループ全体の再資源化率は2012年度57%から2024年度92%まで向上しています。

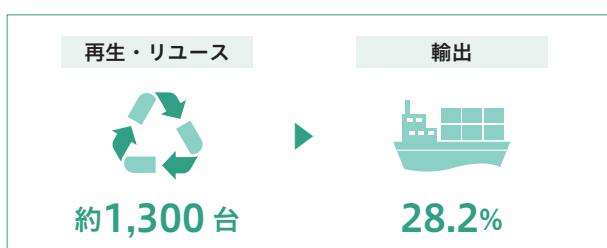
カワイグループ全体で産業廃棄物の排出量が最も多い竜洋工場では、産業廃棄物の木くず・木粉を製紙原料・ボード原料・堆肥・燃料等に、フェルト屑を堆肥等に、塗装廃棄物を無害な石に固め活用する等により、再資源化率100%を達成しています。



リサイクル・リユースの取り組み

循環型社会形成推進のための拡大生産者責任の考え方を踏まえて、ピアノの再生とリユースを推進しています。現在、国内統括部の中古ピアノ担当グループが竜洋工場内で本事業を担当しています。下取りしたピアノを再生し、新たなお客様のもとへお届けしています。

2024年度は国内で約1,300台のピアノが再生、リユースされました。そのうち、28.2%が輸出され、世界の各地で使われています。



メーカーによるピアノの修理・再生

メーカーだからできる仕事があります。ピアノづくりに精通した経験豊かな専任技術者により、古いピアノでも全面オーバーホールすることが可能です。弦・ハンマー・アクションの交換から全面塗装までお客様のニーズに応じたピアノ再生を行っています。

再生は、ピアノの製造部門で長年の経験をもち、塗装技術、木工技術、調律技術など、その道の専門家がそれぞれ担当しています。その仕上がりは、多くのお客様から好評をいただいています。また、カワイ製ピアノについては純正パーツによる修理・再生も可能で、大きな魅力となっています。



植林・植樹

インドネシアの「カワイの森」植林活動

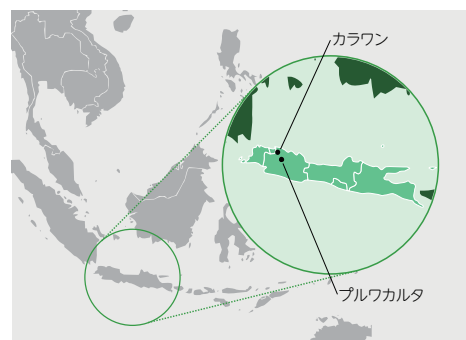
ピアノには多くの木材が使用されています。それらの木材を扱うカワイは創立80周年記念事業として2007年にカワイグループ社員の有志により、カワイの森育成会を設立しました。



カワイグループの地球環境憲章の基本理念に則り、CO₂の吸収源の確保、樹木が伐採された土地に森林を再生することや持続可能な木材資源の確保を目指して、カワイインドネシアとインドネシア森林公社との連携のもと、海外生産拠点のあるインドネシアにおいてファルカタ、チーク、マホガニー等の植林活動を行っています。2017年度からは水産養殖等の目的で急速に破壊されたマングローブ林の再生活動にも取り組みをはじめました。

これらの活動はカラワン県やインドネシア西ジャワ州からも評価され、2018年から連続してCSRに関する表彰を受けています。

2024年度はカラワン県およびプルワカルタ県にて植林を行い、累計植林面積は約850ha、累計植林本数は約88万本になりました。ほとんどの樹木が順調に成長しており、このまま育成が進むとすると「カワイの森」により年間12,800t程度のCO₂の吸収効果がうまれ、カワイグループ全体のCO₂排出量の57%程度を吸収していくものと試算しています。



インドネシア「カワイの森」植林地



西ジャワ州からの表彰状

累計面積

850ha

前年比
+6%

累計本数

88万本

前年比
+5%

気候変動

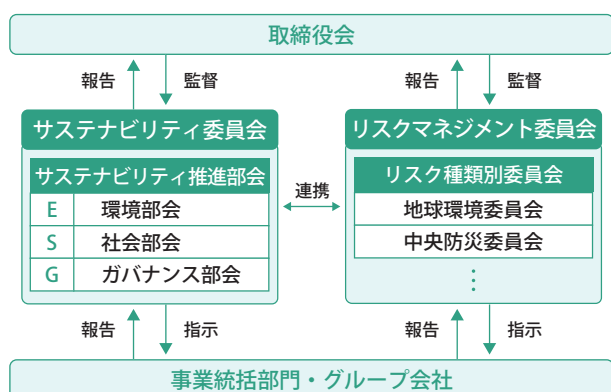
TCFD* 提言に基づく情報開示

私たちカワイグループは、KAWAI Philosophy の Vision 「100年後もつづく、音楽文化を。」の実現に向け、地球環境と資源を守ると共に、真に豊かな心と社会の実現に向けて、取り組みを積極的に推進しております。環境分野での取り組みの中でも、気候変動や生物多様性の損失など地球を取り巻く環境問題は年々深刻になり、企業の果たす役割もより重要視されてきていることを認識しており、TCFDフレームワークを活用した気候変動リスク及び機会の特定及び対応策の策定と経営戦略への統合が、当社グループの持続的成長と企業価値向上に資するものと考え、TCFDガイドラインに即した情報開示を進めております。今後はTCFDフレームワークに基づいて情報開示を進めると共に、CO₂ 排出量や廃棄物量の削減、植林活動を通じて気候変動を緩和し、2050年のカーボンニュートラルの達成を目指して貢献に努めてまいります。

*TCFDは「Task Force on Climate-related Financial Disclosures (気候関連財務情報開示タスクフォース)」の略で、気候関連の情報開示及び気候変動への金融機関の対応を検討するため、FSB(金融安定理事会)により設立されました

ガバナンス

カワイグループでは経営課題の一つにサステナビリティを定め、気候変動を含む持続可能な経営に関わる諸課題(サステナビリティ課題)の解決に貢献することを目指しております。サステナビリティに係る重要事項はサステナビリティ委員会にて審議を行ったうえで定期的(年に1回以上)に取締役会に報告を行うこととしています。取締役会はカワイグループのサステナビリティ課題への対応方針および実行計画などについての議論を行い、指示・監督を行ってまいります。そのうち気候変動に関わる諸課題は、サステナビリティ委員会の下部組織の1つである環境部会が担当しており、委員会の決定に基づいた事業統括部門・グループ会社での意思決定が適切に組織に反映される体制を整えてまいります。



リスク管理

カワイグループの気候変動を含むサステナビリティに関わる諸課題の管理体制及びプロセスについては、サステナビリティ委員会がその統括管理を実施することとしています。リスクの特定にあたっては各事業部からの報告をはじめ、サステナビリティに関する社会動向や外部要請を参考にサステナビリティ委員会が重要度の大きなリスクについて識別及び評価し、サステナビリティ活動に関する計画・目標を定めます。この設定した計画・目標に沿ったサステナビリティ活動を推進し、事業統括部門・グループ会社の具体的な活動の指示及びモニタリングを実施することで、リスクの未然防止や影響規模の緩和を図ります。なお、これらのプロセスを経て特定されたリスクはリスクマネジメント委員会とも共有いたします。リスクマネジメント委員会ではその緊急性なども勘案しながら、短期的かつリスクの発生時対応を行う組織として必要に応じて個別に管理を行います。

戦略

カワイグループでは、気候変動が事業経営にどのような影響を与えるのかを検討し、重要課題への対応を経営戦略へと反映させることを目的として、シナリオ分析を通じた気候変動による影響評価を実施しています。気候変動に対する影響度及び対応策の考察・分析にあたっては、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)や国際エネルギー機関(IEA)が報告している各シナリオを参考に、以下のような将来世界の仮説から、2030年及び2050年時点でのカワイグループへの影響についてリスクと機会について考察を実施しています。リスクの発生時対応を行う組織として必要に応じて個別に管理を行います。

4°Cシナリオ

産業革命期の世界平均気温と比較して21世紀末頃までに世界平均気温が4°C上昇すると仮定したシナリオ。気候変動政策は2021年時点で施行されている規制以上に強化されず脱炭素化への移行は推進されないため、温暖化の影響が拡大し災害の規模や頻度が拡大する。

参考シナリオ

IPCC : RCP8.5
IEA2022 : STEPS

1.5°Cシナリオ

産業革命期の世界平均気温と比較して21世紀末頃の世界平均気温の上昇が2°C未満に抑制されると仮定したシナリオ。カーボンニュートラルの実現に向けて、積極的な環境政策が推進されるために移行リスクによる影響が拡大する。

参考シナリオ

IPCC : RCP2.6
IEA2022 : APS / NZE2050

項目	2030 年における影響		評価			現在の取り組み・対応方針
	要因	事象	影響種別	4℃シナリオ	1.5℃シナリオ	
脱炭素社会への移行に伴う影響	カーボンプライシング	・炭素税導入による事業運営コストの増加 ・温室効果ガス排出量削減に伴う支出の増加	リスク	小	大	・CO2 排出削減目標の設定と運用 ・製造設備における再生可能エネルギーの使用（太陽光パネル）
	電力価格の変化	・再生可能エネルギー由来発電への切り替え等による電力価格の増加 ・化石燃料需要の変化に伴う輸送コストの増加	リスク	中	中	・電力会社による定期的な省エネ診断の実施 ・LED 照明への更新 ・省エネ工場設備の導入
	原材料価格の変化	・森林資源に対する規制や行動変化による木材価格の高騰 ・脱炭素への移行に伴う影響分の価格転嫁等による金属価格の高騰	リスク	小	大	・カワイグリーン調達ガイドラインの策定と運用 ・廃棄物削減及びリサイクル率の向上
	顧客行動の変化	・エシカル消費志向の拡大に伴う環境対応ニーズの拡大	機会	小	中	・地球環境憲章に基づく環境方針の策定と運用 ・再生材使用製品の優先的調達
地球温暖化に伴う物理的影響	異常気象災害の激甚化	・各拠点（営業所・事務所・研究所）の被災による損失の発生 ・サプライチェーンの寸断 ・水害、干ばつ、森林火災をはじめとした地域別リスクによる森林の被害と、木材原材料調達への影響	リスク	大	大	・BCP 計画の策定と強化 ・中央防災対策委員会の設置
	平均気温の上昇	・地域別の木材生育悪化と品質劣化 ・野外活動制限や巣ごもり需要増加に伴う室内娯楽ニーズの拡大	リスク 機会	大	中	・カワイの森育会による植林活動 ・カワイ木材調達ガイドラインの策定と運用 ・オンライン形式も活用した海外での音楽文化普及

<影響度合い評価方法>

大：影響額が営業利益に対して 3% 以上のもの 中：影響額が 3% に満たないもの 小：影響額が軽微、もしくは無いもの

※定量的な評価が困難な項目については、影響度合い評価方法で定める閾値に基づいて、参考としたパラメータや文献をもとに定性的に影響規模を分析しています

4℃シナリオでは、異常気象の激甚化から自社施設の直接的な被害の増加や、サプライヤーの被災によるサプライチェーンの寸断、また当社製品の重要な資源である木材資源の減少を想定しております。その他、継続的な化石燃料の需要拡大などを背景に、石油由来原材料の価格高騰から輸送コストの増加も懸念され、主にサプライチェーンの上流側に関わる支出増加や損失の拡大が懸念されます。一方で、平均気温上昇による巣ごもり需要の増加は、室内で楽しめる楽器製品への需要を後押しする要因の 1 つとなる可能性も認識しています。

1.5℃シナリオでは、脱炭素化に向けたカーボンプライシング導入による影響、再生可能エネルギー由来電力への切り替えに伴い、事業運営コストの増加が財務的にも影響を及ぼす可能性を想定しています。また、このような影響は当社のサプライヤーにも同様に求められることを想定しており、金属系素材をはじめ製品原材料の価格高騰も懸念されます。一方、環境負荷の少ない製品開発を通して、エシカル思考の高まった顧客の購買意欲を掻き立てる機会になると想定しており、製品の環境性能の向上が社会貢献と事業機会獲得の両軸で資するものと捉えています。

これらの分析結果を踏まえ、今後は気候変動影響に対するレジリエンス性を高めると同時に、経営の脱炭素化及びカーボンニュートラルの達成を見据え、引き続き取り組みを強化推進してまいります。なお、現在の取り組み状況としては、地球環境憲章を定め、現在も運用しているカワイグリーン調達ガイドライン、カワイ木材調達ガイドラインで定める資源の持続的な調達を目指し取り組みを推進しているほか、環境負荷低減に向けた CO₂ 排出量や廃棄物量の削減目標の策定と進捗管理を実施しております。

指標と目標

カワイグループは、SDGs への取り組みの一環として CO₂ 排出量の売上百万円あたりの原単位削減を経営目標の 1 つとして設定しており、当社グループの気候変動対応の取り組み状況の評価指標として引き続きその進捗を追っています。2022年度～2024年度の3ヶ年計画としては2021年度を基準年として毎年売上原単位あたりの排出量 1% 削減することを目標値と定め運用しています。省エネルギーに配慮した工場設備の導入、LED 照明への更新、太陽光発電設備の導入の結果、2024年度は 2021年度比 5.4%の減少となり目標を達成しています。2025年度からの 10 年間は「スコープ 1、2 の GHG 排出量を 2016年度比で 50% 削減する」という中長期的な目標を設定しています。なお、CO₂ 排出量実績については、表の通りです。

集計範囲		排出量実績 (t-CO ₂)		
		2022年度	2023年度	2024年度
Scope1		6,123.3	4,810.4	4,155.2
内訳	国内拠点	5,674.8	4,522.2	3,866.4
	海外拠点	448.5	288.2	288.8
Scope2		20,813.3	19,138.6	18,235.6
内訳	国内拠点	14,916.2	14,099.5	13,772.8
	海外拠点	5,897.1	5,039.1	4,462.8
Scope1+Scope2		26,936.6	23,948.9	22,390.8

Social

音楽と教育を通じて次世代の成長を支え、
多様な人財が活躍できる社会を創造することで
より豊かでうまい未来を築いてまいります

マテリアリティ



マテリアリティ	主な取り組み課題	中期経営計画期間における目標（2025年4月～2035年3月）
人財育成と働きがいのある 職場環境の整備	人財育成、技能習得支援	●社内研修受講率100%（受講対象者ベース） ●竜洋工場 カワイ作業員認定取得率30% ●調律師 国家資格取得率100%
	働きがいのある職場環境づくり	●ワークエンゲイジメント指数*の継続的な向上（年1pt 向上） * ストレスチェックの結果より算出
	DEI* の推進 *Diversity/Equity/Inclusion （多様性 / 公平性 / 包括性）	●DEI研修の継続的な実施 ●女性管理職比率12.5%
	労働安全衛生の確保及び健康経営	●労働災害発生率0% ●健康経営優良法人認定におけるホワイト500の認定
音楽文化発展への貢献	ピアニストの育成支援	●カワイ音楽コンクールの継続的な開催
	地域での音楽文化振興	●カワイコンサートの継続的な開催 ●工場見学の継続的な実施
	調律師の育成	●調律師の継続的な輩出
品質・安全・ 顧客満足度の追求	品質、顧客満足度の向上	●顧客満足度の継続的な向上
	AI/IoT 等のデジタル技術の活用	●デジタル技術を活用した新製品 / サービス開発の促進
持続可能なサプライ チェーンマネジメント	サプライチェーン上のESGリスク （労働問題、人権リスク）への対応	●サステナビリティ調達ガイドラインの策定 ●本ガイドラインに沿ったサプライヤー評価実施
	取引先との協力、円滑な関係構築 （人財不足、事業承継問題への対応）	

関連する主な実績

音楽文化発展への貢献

カワイは、重要課題の一つに「音楽文化発展への貢献」を掲げ、地域社会や次世代のための活動を進めています。ピアニストの育成支援、地域での音楽文化振興、高度な技術を継承する調律師の育成など、人財と環境の両面から音楽を支える基盤づくりに注力。豊かな音楽文化を未来へ受け継ぎ、その価値を広く社会に届けています。

ピアニストの育成支援



カワイ音楽コンクール開催 (1968年～)

60回

地域での音楽文化振興



カワイコンサート開催 (1971年～)

2,300回以上

調律師の育成



調律師輩出数 (1963年～)

2,700名以上

文化貢献

第5回 Shigeru Kawai 国際ピアノコンクール



©Shigeru Kawai 国際ピアノコンクール

近年、数々の国際コンクールで公式ピアノとして採用されている「Shigeru Kawai グランドピアノ」。この名を冠した Shigeru Kawai 国際ピアノコンクールは2017年の当社創立90周年を記念して創設されました。このコンクールではすべての審査会で Shigeru Kawai グランドピアノを使用すること、また、ファイナルの課題曲が2台のピアノによるピアノ協奏曲であることを特色としています。

2025年に開催された第5回のコンクールには、世界22の国と地域から324名のコンテストのエントリーがありました。8月2日には渋谷区文化総合センター大和田「さくらホール」にて、厳正な審査を通過した6名のファイナリストの演奏が繰り広げられ、スペインのギジェルモ エルナンデス バロカル (Guillermo HERNANDEZ BARROCAL) さんが第1位に輝きました。今後も引き続き本コンクールを通じて、次世代を担うピアニストを世界各地から発掘・育成するとともに、国際交流の推進や世界の音楽文化の振興を目指してまいります。

▶ Shigeru Kawai 国際ピアノコンクール

<https://skipc.jp/>



コンクールの動画配信

本コンクールは1次予選からファイナルまで、演奏の様子をライブ配信いたしました。「Shigeru Kawai 国際ピアノコンクール 公式」YouTube チャンネルにてアーカイブ動画を公開しております。

▶ 「Shigeru Kawai 国際ピアノコンクール 公式」

YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/@SKIPCOfficial>



©Shigeru Kawai 国際ピアノコンクール

カワイ音楽振興会



カワイ音楽振興会は日本の音楽文化の向上をめざして、1963年に設立されました。「カワイコンサート」の開催をはじめ、海外著名演奏家や音楽教育家の招聘事業、国内一流音楽家のリサイタル・公開講座など多彩な催しの企画実施、また様々な音楽活動や文化活動の支援も行なっています。

▶カワイ音楽振興会

<http://kawai-kma.com/>



■ クロイツァー記念会への支援

クロイツァー記念会は、ドイツと日本で活躍したレオニード・クロイツァー教授の遺徳をしのぶ門下生および関係者により1962年3月、高折宮次氏を会長に設立されました。日本のピアノ音楽界発展のために尽くすという設立主旨に沿って諸事業を行っています。

1971年より、クロイツァー教授の日本音楽界に対する功績を記念して「クロイツァー賞」を制定し、教授が生前教鞭をとった東京芸術大学、国立音楽大学、及びゆかりの深かった武蔵野音楽大学の各大学院ピアノ専攻修士の中から、特に優れた成績をおさめた人に賞を贈呈しています。

■ 日本ショパン協会への支援

日本ショパン協会は、1960年8月、フレデリック・ショパン生誕150年を記念してポーランドのショパン協会との交流のもとに設立されました。初代会長は高折宮次氏で、高折氏と交流のあった河合滋社長（当時）が名誉会長となり、事務局を河合楽器製作所内に設置して、その活動をスタートしました。

以後、年に数回の演奏会や公開講座の例会、1980年以降5年毎のショパン国際ピアノコンクールへの参加者オーディション、2005年以降は5年毎に日本ショパンピアノコンクール、2010年以降は毎年ショパン・フェスティバル in 表参道などを開催しています。

■ 日本シマノフスキ協会への支援

日本シマノフスキ協会は、1981年（カール・シマノフスキ生誕100年の前年）に設立されました。

シマノフスキがポーランドを代表する作曲家としてショパンと並び称されるには、いくつかの理由がありますが、最大の理由は、彼の後期の作品がポーランドの山岳地帯の古い形の民謡をもとに傑作を生みだしたことによるものです。ポーランド人の民族性、土俗性が表現された深い味わいがあるシマノフスキ作品を日本国内に広める活動を行っています。オーディション形式のフレッシュ・コンサートや、例会としてコンサートや公開講座等を開催しています。

■ カワイコンサートの開催

『カワイコンサート』は「日本中の人々に良い音楽を」というポリシーのもと1971年にスタートしました。これまでに2,300回以上開催しており、毎年全国各地で国際的なピアニストや新進気鋭の若手ピアニストなど様々な演奏家をお招きし、皆様に良い音楽との触れ合いを楽しんでいただいています。

▶カワイコンサート情報

<http://kawai-kmf.com/kawai-concert/2025/>



教育・育成

カワイ音楽教室

カワイ音楽教室は、音楽文化の普及を目指して1956年(昭和31年)にスタートしました。全国各地に4,000余の教室があり、音楽教室を中心に、英語教室、絵画造形教室など、さまざまな教育活動を展開しています。一人ひとりの個性を引き出すという教育の理念のもと、幼児から社会人、中高年の方までを対象に年齢やレベルに合わせて、興味の芽を大切にし、素直に自己の感性を表現することを実現するサポートを行っています。

「個」そしてその「表現」を大切にします。

カワイ音楽教室の理念は音楽「を」学ぶのではなく、音楽「で」学ぶこと。ただ単に技術を習得して「うまく」なることだけを目的とせず、各コースの表現活動を通して個性を育み、より豊かな人格形成を目指します。

personality & harmony



KAWAI MUSIC SCHOOL

カワイは音楽を通じて、一人ひとり

かけがえのない個性 (personality) を導きだします。

そして、おたがいの個性を尊重しあう中から、

他人(ひと)と心を通わせ心を共振 (harmony)

させる喜びを創りだします。

カワイ英語教室

カワイが開発したIMA(Imagination, Music, Action)方式のカリキュラムに沿って、豊かな人間性をもつ講師とともに歌やゲームを楽しみながら生きた英語を身につけます。また、言葉の背景にある文化についても理解を促し、真の国際人を育てます。



カワイ絵画造形教室

画一的指導ではなく個人差やプロセスを重視しながら、子どもたちの独創性と創造力を豊かに育んでいます。紙や粘土、カワイ独自のピアノの木片など豊富な素材を使い、自由に創作活動に取り組むことができます。



カワイおとなの音楽教室

高まる中高年の人々の生涯学習や余暇活動へのニーズに対応し、ピアノ、ボーカル、弦楽器、管楽器など、様々なコースを運営しています。自分の好きな曲をその人のレベルに合った内容で受講できることから、多くの受講者を集めています。



▶カワイ音楽教室

<https://music.kawai.jp/>



カワイ音楽コンクール

1968年にスタートしたカワイ音楽コンクールは「技術の優劣よりも”自発的な音楽表現”を積極的に評価する」という理念に基づいています。このコンクールは「カワイピアノコンクール」、「カワイこどもピアノコンクール」、「カワイうたのコンクール」の3つからなり、半世紀以上にわたり多くのピアニストたちを輩出してきました。

2024年8月には「横浜みなとみらいホール」にて57回目となるカワイピアノコンクール全国大会(連弾部門・ソロ部門)を開催いたしました。この全国大会には、21,500名を超える予選参加者の中から厳しい審査を通過した92名が出場し、ホールには日頃練習を積み重ねてきた未来を担うピアニストたちの音楽が響き渡りました。



海外での音楽教室展開

海外ではインドネシアを中心に中国、タイ、ベトナム、台湾のアジア地域でも音楽教室を展開しています。

音楽教室では通常のレッスンの他、様々なイベントを開催しています。習熟度をはかるグレードテスト、年齢や経験・目的に応じたコンクール、レッスンの成果披露の場としてのコンサート、入会前のレッスン体験や保護者への説明会などを通じて音楽教育の普及に努めています。

また、講師を対象とした音楽教育セミナーや研修などを実施し、現地教育者の人財育成を推進しています。



▶ KAWAI MUSIC SCHOOL GLOBAL (英語サイト)

<https://musicschool.kawai-global.com/>



KAWAI MUSIC SCHOOL PIANO COMPETITION

KAWAI MUSIC SCHOOL PIANO COMPETITION は、アジア地域への音楽教育の普及・浸透を目的として創設されました。

インドネシア・中国・タイ・台湾・ベトナムのカワイ音楽教室の生徒を対象としたこのコンクールは、カワイのオリジナルの教育メソッドであるサウンドツリーを基準としたソロ部門と連弾部門の9つのカテゴリーに分かれ、各地域の予選会を経て本選会へ参加する形となっています。審査は技術だけでなく自己の表現、レッスンの成果が表れているかなどに焦点をあてて評価しています。

コンクールの規模は回を重ねるごとに大きくなり、それに伴い参加人数も増加。第4回となる今回は1,810名がエントリーし、飛躍的な拡がりを見せています。



カワイ音楽学園

カワイ音楽学園は、1961年にピアノ調律技術者養成所としてスタートしました。1年間でピアノの調律に携わるために必要な幅広い知識と技術を身につけることができる調律師の養成所です。ピアノの調律・整調・修理などの実技科目だけでなく、ピアノの歴史・構造・設計や一般的な音楽知識も学ぶことができます。

昨年度も13名が卒業し、調律師としてのキャリアをスタートしました。調律学科はこれまでに2,700名を超える卒業生を輩出しており、日本国内のみならず海外のアフターサービスや国際コンクールなどにも広く活躍しています。



▶カワイ音楽学園

<https://gakuen.kawai.co.jp/>



調律師のキャリアの一例

1年目



1年の学園生活を終え、4月より販売担当などの新入社員と共に研修を行い、概ね5月より配属先に赴任します。最初は先輩調律師に同行して顧客宅に調律に行くなどフォローを受けながら調律師としてひとり立ちしていきます。その後も折に触れて先輩・上司から調律技術の確認と手ほどきを受け、国家資格である「2級ピアノ調律技能士」の取得を目指します。

5年目



調律師として、また社会人としても成長し、さまざまな顧客のニーズに応えられるようになります。例えばピアノ買い替えの相談や、発表会の調律・立ち会いなど、顧客宅の調律以外にも幅広く活動するようになります。また、3週間の技術研修「GP グランドコース」を受講し、グランドピアノユーザーの要望に応えられる技術力を身に付けます。合格率25%ほどの難関「1級ピアノ調律技能士」に挑戦、取得する者が出てきます。

15年目



ピアニストや音大講師、音大生の高度な要望に応えられるよう、1か月間の技術研修「GP マスターコース」を受講し、調律師としての対応力を高めます。日々レベルの高い仕事をこなしてアフターサービスの中核を担い、中にはカワイ調律師において最も権威のある社内資格「MPA（マスター・ピアノ・アーティザン）」を取得をする者も出てきます。さらには海外研修を経て「コンサートチューナー」として世界の名だたるピアノコンクールを担当する調律師もいます。

30年目



調律の知識、技能の追究に終わりはなく、この頃になると後進の指導も任されます。若手調律師の「師匠」の役目を担い、技術を継承していきます。調律師の技術は代々このように受け継がれていきます。また、定年後会社を退職しても嘱託社員として仕事を続けたり、自営業として可能な範囲で調律を続ける技術者も多いです。

体育・スポーツ教室

子どもを対象とした体育コースやスポーツコースでは運動能力の発達や技術の向上はもちろん、集団でのレッスンの中で協力して目標に向かったり、互いに励ましあったりすることで社会性を養うことなど、「からだの面」、「こころの面」、「知的な面」の3つの要素を重要視した指導を行い、人間的豊かさにあふれる人の育成をサポートしています。

カワイ体育教室の「運動あそび」は

**3つの要素を
バランスよく育んでいきます。**

運動能力はもちろん、子どもたちの個性を大切にしながら「からだ」と「こころ」の調和を図り、さらに、考える力などの「知的な面」もバランス良く指導します。



01

そだちシステム

カワイ体育教室では、独自の教育システム「そだちシステム」により、成長過程を数値化し、データをもとにきめ細やかな指導をするとともに、年に一度、結果を記録したシートをお渡しします。

02

音・リズムの導入により 感覚器官の動きを高めます。

カワイ体育教室、独自の教材曲集を使ってレッスンに音・リズムを取り入れた楽しいレッスンを行います。

■ 体育コース

2オクラス、幼児クラスなど、年少から年長のお子様を対象に各年次の発達、発達に即した運動あそびを経験することで楽しみながら運動技能を身につけるコースです。運動に関する創造性、積極性、できる喜び等を育てます。



■ スポーツコース

器械体操・新体操・サッカーなどスポーツの基礎を身につけるコースです。技術だけではなく、ルールを学び、人とのコミュニケーションを学べるコースで一人ひとりの能力や、からだの発達と発育を考慮した指導を行っています。



▶カワイ体育教室

<https://www.kawai.jp/physical/>



■ カワイ ヘルスプロモーション サポートシステム

カワイは、体育教室をはじめとした健康づくりのサポートを全国で展開してから50年以上になります。このキャリアとノウハウを広く社会に公開・提供するのも一つの役目と考えています。

未就園児から高齢者まで、楽しみながら健康の維持・促進を図り、しかも測定データや最新機器を駆使し科学的にサポートする「カワイ ヘルスプロモーション サポートシステム」を構築し、さまざまなステージでの、健康づくりをサポートしています。



スポーツコミュニティ

カワイ体育教室では、トップアスリートとの交流を通じて子どもたちの健全な育成を促進するとともに、新体操・器械体操・サッカーの3種目で日頃の成果を披露する「カワイカップ」を毎年開催し、学びと実践の機会を提供しています。

■ 全国新体操競技大会

2024年8月6日、「第19回カワイカップ 全国新体操競技大会」が浜松アリーナにて開催されました。新体操クラス チーフアドバイザーの川本ゆかりさんも見守る中、全国から集まった新体操クラスの生徒が、リボン・ボール・ロープ・徒手など多彩な演技で成果を披露しました。

■ 器械体操競技大会

2024年9月16日には「カワイカップ器械体操競技大会」が開催され、跳び箱やマットで練習の成果を披露しました。カワイ体育教室チーフアドバイザーの水鳥寿思さんからの講評に、選手たちは引き締まった表情で耳を傾けていました。

■ 全国サッカー競技大会

「第21回カワイカップ全国サッカー競技大会」は2025年3月25日・26日の2日間、浜松市浜北平口サッカー場で開催されました。さくらが咲き始める快適な天候のもと、全国から集まったサッカークラスの生徒たちがフェアプレーとチームワークを大切に全カプレーを披露しました。



カワイ体育教室 スタッフ紹介



チーフアドバイザー
水鳥 寿思 さん

2004年
アテネ五輪 体操競技金メダル
2012年～2024年
男子体操競技（強化本部長／代表監督）
2024年～現在
日本体操協会強化統括責任者

運動を行うことで体力や運動能力などの丈夫な体を獲得できたり、目標達成能力や集中力などの精神的成長、仲間や先生とのコミュニケーションなどによって社会性も養われますが、そうした様々な効果を子どもが遊ぶながら自然と得られる、ということは他には代えがたいものであり子供にとって非常に重要な存在なのでは、と考えています。また、夢中になって取り組んだ成果が形となって表れ、本人のみならず、見ている人にも感動を与えることができるのも運動の素晴らしい力だと考えています。



新体操クラス チーフアドバイザー
川本 ゆかり さん

1990-1994年
全日本選手権 5 連覇
1995年
バルセロナ五輪出場 新体操競技

小さい頃からお転婆で、できないことはできるまでやる！という負けず嫌いな子どもでした。小さなことでもできた！成功した！という経験は自信へと繋がり、自分で運動の工夫や創造をすることが好きになるものです。小さい頃に様々な運動活動で多種多様な動きを身につけることで、生涯に渡って身体を動かすことが楽しいということに繋がります。仲間と一緒に喜んだり助け合い励まし合う経験が、生きる力を学ぶことにも繋がると思いますので、グループ活動もたくさん経験することができる環境づくりが大切だと思います。

人財育成

人財育成基本方針

カワイグループでは、「従業員一人ひとりが能力を発揮することがカワイグループとしての成長につながる」という考えのもと、人財こそが最大の資産と捉え、人財育成を時代の変化に対応できる企業となるための重要な戦略課題と位置づけています。従業員一人ひとりが能力を発揮できる仕組みや環境を整備し、企業としての持続的な成長を図ってまいります。

人財育成体系

基本方針のもと、従業員が自らのキャリアを創り自主的に成長していく姿勢を醸成するべく人財育成を行っています。

	階層別研修	職種別研修（各部門主導）	自己啓発支援	共通
経営層	新任取締役研修			
管理層	新任執行役員研修 次世代経営幹部候補者選抜育成 新任管理者研修			
監督層	管理者候補研修 新任監督者研修	・営業部門（マーケティング部門） ・生産部門（品質・多能工化等） ・音教／体育 ・スタッフ部門 ・技術／開発	通信教育・eラーニング	マイライフプラン研修 コンプライアンス研修 女性キャリアアップ研修 ダイバーシティ研修
一般層	若手育成強化 6年次研修 3年次研修 フォローアップ研修 新入社員研修 キャリア形成支援	調律（研究科・高等科・MPA） 技能継承（レア／つくりの核となる後継者育成）		

■ 階層別研修

各階層において求められる基礎知識の習得と役割認識を深めるため、一般層から経営層に至るまで階層別研修を行っています。特に若手従業員の育成に力を入れており、6年次までの年次別研修を行うと共に、キャリア形成支援としてジョブローテーションを実施して職域拡大を図り、企業力の強化に繋げています。

■ 職種別研修

各部門主導で職種別研修を実施し、職種に応じて従業員の専門性を深め、スキルアップするための教育を定期的に行っています。

■ その他

自己啓発支援のため、通信教育に加え、eラーニングを導入しています。また、各階層に共通するものとして、多様性確保のためのダイバーシティ研修や女性のキャリアアップ研修等を実施し、企業全体として時代の変化に対応できる力を養うための教育を行っています。

ダイバーシティ

ダイバーシティ基本方針

カワイグループでは、女性、外国人、様々な職歴を持つ中途採用者など、人財の多様性を確保することが企業価値の向上につながると考えております。多様な人財の採用・中核人財への登用を積極的に行い、それぞれの特性や能力が最大限発揮されるような職場環境の整備を行うことで、新たな価値を生み出す組織風土を醸成します。

女性活躍推進

カワイグループでは、2019年より女性活躍推進プロジェクト『Love it!』を立ち上げ、誰もが働きやすい職場づくりを目指してワークライフバランスを実現するために活動を行っています。

育児・介護と仕事の両立支援研修やイクボス研修の実施、男性の育児休業取得促進やワークライフバランスガイドブック刊行、ライフサポート休暇の新設。また、部門を横断したサポーターチームによる女性活躍推進に関する提言活動や女性管理職による座談会や研修の実施、女性活躍に関するニュースレターの定期的発行など様々な取り組みを行っています。

このような活動が認められ、2021年1月には「えるぼし認定（二つ星）」*を取得しています。

*えるぼし認定：女性活躍推進法に基づき女性従業員の活躍推進に関する取り組み状況に応じた厚生労働大臣からの認定制度のこと



女性管理者研修の様子



女性管理職比率

6.5% 2028年3月末
目標値 **12.5%**
前年比 **-0.2%**

女性監督職比率

18.8% 2028年3月末
目標値 **20.0%**
前年比 **+2.0%**

グローバル人財の育成と中途採用の強化

国内拠点におけるグローバル人財の採用、育成、登用を強化しております。日本を除く世界各地に13か所の海外拠点があり、現地採用スタッフも活躍しています。今後は、海外駐在者候補となる人財を育成するため、若手社員を中心に海外拠点への短期研修を実施し、グループ全体で基盤整備を行ってまいります。

また、近年より中途採用を積極的に実施しており、2021年度から2024年度までの4年間で中途採用者の合計が57名増加しました。監督層などの中核人財としての採用も行っており、専門的なスキルを持った即戦力のある人財が活躍しています。

外国人従業員数

12名 2028年3月末
目標値 **15名**
前年比 **+1名**

中途採用者数

103名 2028年3月末
目標値 **150名**
前年比 **+22名**

障がい者雇用

カワイグループは、近隣の特別支援学校のご協力のもと、実習による業務の適性を考慮した障がい者雇用を継続しています。2015年度から10年連続で法定雇用率をクリアしており、2024年度の雇用率も2.81%と、法定雇用率の2.50%を上回っています。今後も企業として地域とのつながりを重視しながら、社会的責任を果たしてまいります。

ワークライフバランス

ワークライフバランスの推進

カワイグループでは、KAWAI Philosophy の Values のひとつ「家族のような親密さで寄り添う。」の実現のために、多様な働き方をサポートする各種制度を整備し、社員が働きやすい環境づくりを進めています。

ファミリーケア休暇（育児介護両立支援休暇）の新設

育児期および介護時の柔軟な働き方を実現し、継続的に社会生活（就労）を行なうための休暇を新設いたしました。中学校就学始期に達するまでの子どもの養育、または要介護状態の親族の世話をするために年間10日取得できます。

仕事と生活の両立支援制度

制度		内容
特別休暇	メモリアル休暇	1年に1日、誕生日に取得できる
	ライフサポート休暇	従業員とその家族のライフイベントのために年間2日取得できる
	リフレッシュ休暇	勤続5年ごとに連続5日間取得できる
	裁判員休暇	裁判員または裁判員候補者として裁判所に出頭するために取得できる
介護サポート	介護休業	家族の介護のため最長1年間取得できる
	介護短時間勤務	家族の介護のため最長3年間、1日の労働時間を短縮して勤務できる
	時間外勤務の免除制度／制限措置	時間外勤務の免除／月24時間、年間150時間を超える時間外勤務の免除措置を受けることができる
	深夜業の制限措置	午後10時から午前5時までの業務の免除措置を受けることができる
	介護休暇	家族の介護のため1年に5日間取得できる
	ファミリーケア休暇	家族の介護のため1年に10日間取得できる
妊娠／出産／ 育児サポート	母性健康管理のための休暇等	通勤の緩和、時差出勤・勤務時間の短縮、就業時間内の通院、休憩時間の延長、作業内容の軽減、勤務時間の短縮などの制度を利用できる
	産前産後休暇	産前42日前から、産後56日まで取得できる
	配偶者出産休暇	配偶者の妊娠の申出から出産後1週間のうちに、最大2日間取得できる
	出生時育児休業	子どもの出生後8週間のうちに、最大4週間取得できる
	育児休業	子どもが満2歳になるまで、育児のために利用できる
	育児短時間勤務	育児のために労働時間を短縮して勤務することができる
	時間外勤務の免除制度／制限措置	時間外勤務の免除／月24時間、年間150時間を超える時間外勤務の免除措置を受けることができる
	深夜業の制限措置	午後10時から午前5時までの業務の免除措置を受けることができる
	子の看護等休暇	子どもの負傷や疾病の世話、予防注射や健康診断のために取得できる
	育児時間	休憩時間の他に1日に2回、育児のための時間をとることができる
	ファミリーケア休暇	中学校就学始期に達するまでの子どもの養育のため1年に10日間取得できる

育児休業取得推進

働きながらの子育てをサポートする制度として、1992年から育児休業制度を導入しています。2024年度の女性の取得率は2018年から100%を継続しています。男性の取得率については44%と昨年度の36%から向上し、配偶者出産休暇の取得率についても昨年度の63%から向上し87%となっています。これからも、取得率向上と働きやすい職場環境の整備に努めてまいります。

女性の育児休業取得率

2028年3月末
目標値 100%
前年比 00%

100%

男性の育児休業取得率

2028年3月末
目標値 40%
前年比 +8%

44%

配偶者出産休暇取得率

2028年3月末
目標値 70%
前年比 +24%

87%

健康経営

健康経営宣言

カワイグループでは、従業員の健康管理を経営的な視点から考え、戦略的に「健康経営」を推進していくため「健康経営宣言」を制定しました。

カワイグループは、カワイで働くすべての人とその家族の心身の健康こそが、KAWAI Philosophy の Mission「人生を響かせる。」ための礎であり、当グループおよび社会にとっての大切な財産であると考えます。

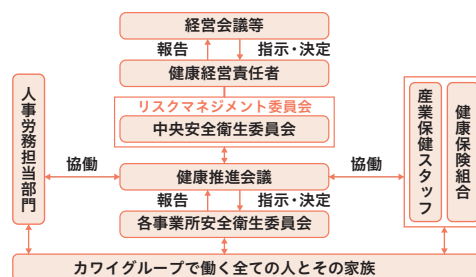
そのために、従業員一人ひとりが「音楽文化の担い手」として、持てる能力を最大限に発揮するとともに、働きがい創造し、創業以来継続してきた音楽文化への貢献を継続・推進できるよう、会社、健康保険組合が一体となり、従業員およびその家族の健康維持・増進のための活動を積極的に支援してまいります。

そして、従業員が能力を最大限に発揮し、いきいきと活躍することで、事業活動を通じて、幅広く人々の生活文化・音楽文化に貢献していくことを宣言します。

健康経営推進体制

健康経営宣言のもと、人事労務部門の担当役員が「健康経営責任者」となり、健康経営を牽引するとともに、人事労務担当部門が中心となり、各事業所長・労働組合の代表者をメンバーとした中央安全衛生委員会をはじめ、産業保健スタッフ、健康保険組合とも連携し、従業員およびその家族の健康づくりを推進してまいります。

また、従業員の健康管理の実施状況について、定期的に経営会議等に報告し、全社一丸となり従業員の健康づくりを促進してまいります。



従業員の健康維持の取り組み

取り組み	内容
定期健康診断	受診率 98.1%。40歳以上は人間ドック負担。婦人科検診率 68.3%。再検査率 35.8%
歯科検診	医療機関で歯科検診を受診した際、健康保険組合から補助金を給付
ストレスチェック	50名未満の事業所も含めた全従業員を対象にストレスチェックと集団分析を実施
健康相談	高ストレスや過重労働従業員への産業医・保健師による月次相談。若手への健康研修・相談で離職防止
喫煙対策	面談や禁煙外来の紹介を通じた支援。禁煙を促すための「禁煙チャレンジデー」を実施
健康セミナー	健康保険組合と共同で毎年 1 回健康セミナーを開催。
ウォーキングイベント	従業員とその家族を対象とし、運動習慣の定着・向上のために毎年 1 回イベントを開催

健康経営優良法人認定

株式会社河合楽器製作所は、日本健康会議が選定する「健康経営優良法人 2025（ホワイト 500）」に認定されました。当社は 2020 年より継続して健康経営優良法人の認定を受けており、この度初めて「ホワイト 500」に認定されました。

健康経営優良法人認定制度とは、地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度で、特に大規模法人部門の上位法人には「ホワイト 500」の冠が付加されます。



労働安全衛生

生産拠点の安全管理

各生産拠点の機械設備や作業環境の安全性をチェックするため、事業所毎に設置されている安全衛生委員会による巡視を実施しています。ピアノ生産の中心を担う竜洋工場においては「5S パトロール」を毎週月曜日に必ず実施し、全行程の安全確認をしています。改善が必要な箇所があった場合には各工程の責任者と連携して迅速な改善を図るなど、生産現場の安全性向上に努めています。



竜洋工場での5Sパトロールの様子

特殊健康診断

疾病リスクのある業務従事者が対象となる特殊健康診断の確実な実施のため、各事業所の担当者と連携し異動や作業内容変更の都度、対象者を確認しています。特殊健診の結果に応じ、産業医や保健師による巡視や面談を行い、就業場所の変更や作業の転換など従業員の健康状態に配慮した適切な対応に努めています。

安全衛生教育

労働災害の防止を目的として、従業員に対し安全衛生に関する教育を行っています。特に新入社員に対しては、配属前に実施される新入社員研修において安全衛生教育に関する講義の時間を設けており、配属までに安全衛生に関する知識をしっかりと提供できるように取り組みをしています。また、配置転換、労働災害発生の都度、各事業所において安全衛生教育を実施し、常に安全衛生意識を念頭に置いた事業活動を推進しています。

身体機能測定会

従業員自身の健康増進や運動習慣の定着・向上、そして労災発生リスクの低減等のために、1年毎に各工場をローテーションで当社体育事業部による転倒リスク改善プログラムを実施しています。

労働災害統計

国内における2024年度の労働災害発生状況は、本社・工場・関係会社では計7件（うち休業・障害災害0件）、全国支店管内では計12件（うち休業・障害災害3件）となりました。業務上の死亡者はありません。

災害内容と対策

災害内容	対策
加工作業中における人力機械工具に起因した切創	器具の安全対策を実施、注意喚起と再発防止策の横展開
運搬作業中における一般動力機械に起因した骨折	作業手順の改善と徹底、保護具着用の義務化

品質・顧客満足

品質・サービス向上の推進

カワイグループでは、KAWAI Philosophy の Credo のひとつである「相手がうれしいと思うことをしよう」の実現のために、法令順守はもとより、品質の継続的な改善による製品およびサービスのさらなる向上が必須と考えています。

国内外の主要な工場では品質マネジメントシステム ISO9001 を導入しており、また品質に関する不具合や異常を未然に防ぐために品質会議を毎月開催し社内の情報共有の強化と迅速な対応に努めています。

品質マネジメントシステム

カワイでは、品質およびサービスの維持向上のために品質マネジメントシステム ISO9001 の導入を推進しています。品質マネジメントシステムで要求されている PCDA サイクルをまわすことで、品質・サービスの継続的な改善に取り組んでいます。

品質マネジメントシステム導入拠点一覧

導入年	導入拠点
1997 年	カワイ精密金属(株) 浜松事業所 (ISO9002 認証取得)
2003 年	カワイ精密金属(株) 浜松事業所 (ISO9001 認証取得)
2004 年	カワイ精密金属(株) (ISO9001 認証を全社に拡大)
2005 年	竜洋工場 (ISO9001 認証取得)
2008 年	カワイ楽器 (寧波) (ISO9001 認証取得) カワイインドネシア第 3 工場 (ISO9001 認証取得)
2009 年	カワイインドネシア第 1・第 2 工場 (ISO9001 認証取得)
2013 年	上海カワイ電子 (ISO9001 認証取得)
2016 年	(株)カワイハイパーウッド (ISO9001 認証取得)

お客様満足度向上の取り組み

カワイグループでは、お客様相談室やお客様サポートサイトを通じて、お客様との信頼関係の構築に努めています。また、アンケート調査を通じて寄せられたご意見・ご要望を真摯に受け止め、商品やサービスの改善に反映しています。

お客様相談室

楽器購入前のご相談、購入後の楽器のご使用方法に関するご相談、品質に関するご相談等、お客様から寄せられる様々なご質問に誠実で迅速な対応を行うべく、お客様相談室で受付を行っています。音楽を愛するスタッフが皆様にとってかけがえのないパートナーを目指してサービスに努めています。

いただいたご意見は総合的に分析し社内にフィードバックすることで、製品の品質やサービスの改善に活かしています。

▶お問い合わせフォーム

<https://www2.kawai.co.jp/info/inquiry/>



お客様サポートサイト

カワイお客様サポートサイトでは、ピアノの修理や調律、各種製品の修理などのアフターサービス、カタログや取扱説明書、プログラム更新等の各種データのダウンロード、カワイピアノ、デジタルピアノ等のカタログ請求や試弾のご予約、見積依頼のためのサポートサイトをホームページ上に設けてサービスに努めています。

▶お客様サポート

<https://www.kawai.jp/support/>



Governance

経営の公平性と透明性を確立し、リスクの管理と法令を遵守することで、持続可能な企業価値を生み出す健全なガバナンス体制を推進してまいります

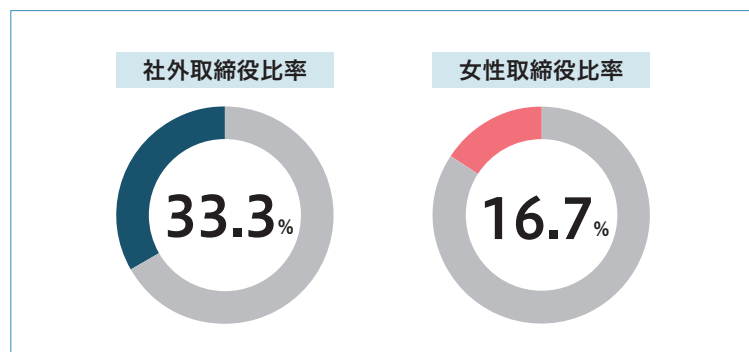


マテリアリティ



マテリアリティ	主な取り組み課題	中期経営計画期間における目標（2025年4月～2035年3月）
ガバナンスの強化	取締役会の実効性向上	●実効性評価の毎年の実施と提言された課題への継続的な対応
	リスクマネジメントの実践	●リスクマネジメント体制の運用と重大なリスクへの対処
	災害リスクへの対応	●BCPの体制構築と有事を想定した訓練の実施
	サイバーセキュリティへの対応	●情報セキュリティ基本方針の策定と情報セキュリティ管理体制の運用 ●セキュリティ強化の為に訓練の実施
	コンプライアンスの維持、強化	●コンプライアンス強化の為に継続的な啓蒙
	事業活動上の人権リスクへの対応	●人権方針の策定と人権DDの実施

取締役会構成



当社の取締役会は、多様な視点を経営に反映することを重視しています。現在、取締役会における社外取締役の比率は33.3%、女性取締役の比率は16.7%となっており、ガバナンス体制の強化と多様性の推進に努めています。

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス基本方針

■ 目的およびコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

株式会社河合楽器製作所グループは、「KAWAI Philosophy」に基づき、持続的な企業価値の向上を実現するために、コーポレート・ガバナンス基本方針を制定し、コーポレート・ガバナンスの充実に継続的に取り組みます。

※コーポレート・ガバナンス基本方針の一部抜粋

この基本方針では、コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方やステークホルダーとの関係、コーポレート・ガバナンス体制など、6つの章に定めています。

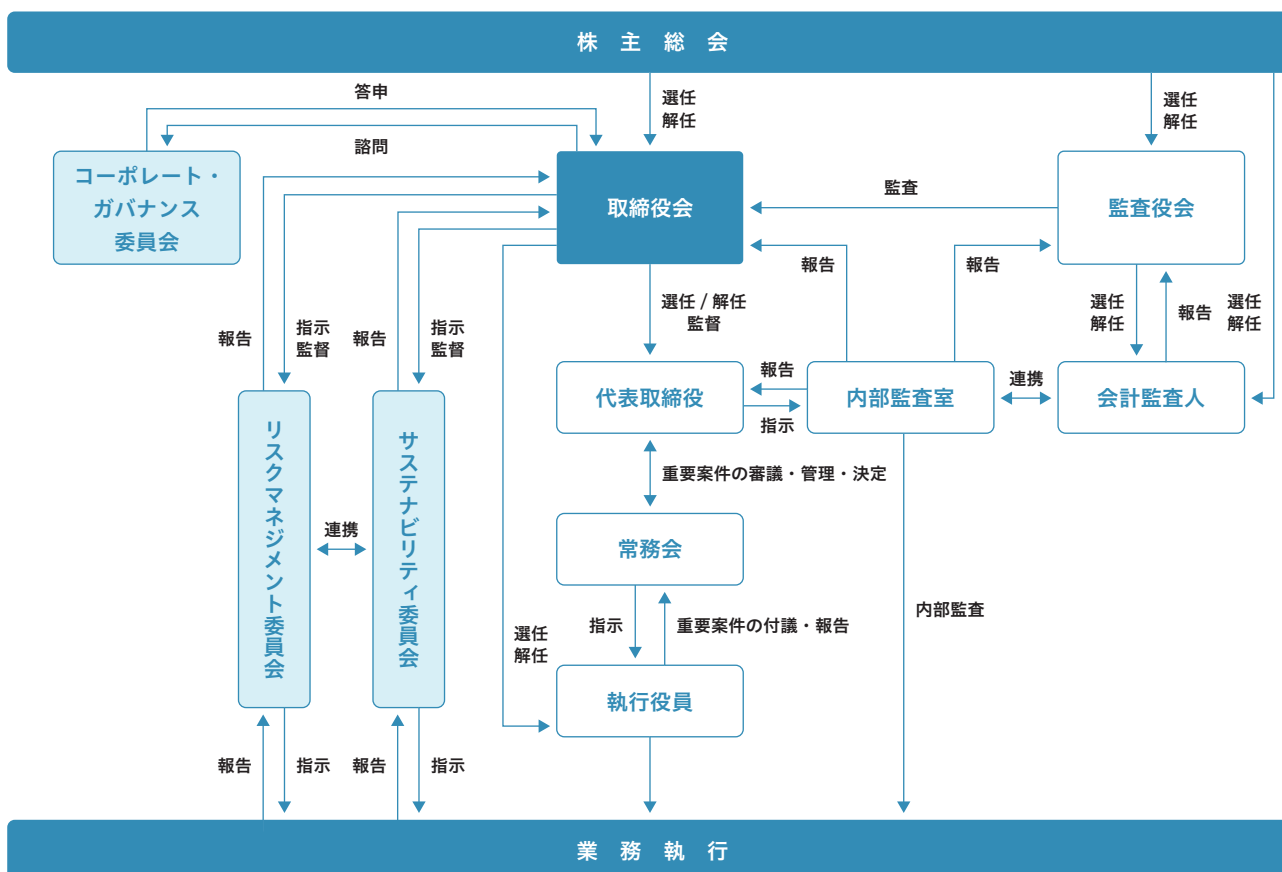
▶コーポレート・ガバナンス基本方針

https://www.kawai.co.jp/csr/governance/corporate_governance/



コーポレート・ガバナンス体制

当社のコーポレート・ガバナンス体制および内部統制体制は下図のとおりです。



コーポレート・ガバナンス体制の状況

当社は、監査役会設置会社の体制を採用していますが、取締役による的確な意思決定と迅速な業務執行とともに、適正な監督および監視を可能とするガバナンス体制を構築しており、一層のコーポレート・ガバナンスの充実に向け実効性を高める運営プロセスを整備しています。

取締役会

社外取締役を含む取締役で構成。社外取締役には客観的な立場から取締役会における意思決定の妥当性及び取締役会の職務執行について大局的な視点で助言、監督をいただき、経営の透明性を高めています。また、2002年4月より導入した執行役員制度を2005年6月に改編し、取締役にも執行役員を兼務させる体制とし、全社的課題への対応力の強化を図るとともに、業務執行における責任の明確化および指揮命令系統の充実に図りました。

コーポレート・ガバナンス委員会

取締役会の諮問機関として「コーポレート・ガバナンス委員会」を設置し、取締役候補者の選定に関する事項、取締役の報酬に関する事項、その他コーポレート・ガバナンスの向上に関し審議し取締役会に答申、報告を行っています。

常務会

取締役会における意思決定事項に対する具体的な業務執行方針及びその計画案、並びに高度な判断を伴う日常的業務案件の審議、管理、決定機関として常務会を設置しており、原則毎週1回定期的に開催しています。

監査役会

社外監査役を含む監査役で構成。監査役会は、監査方針と分担を定め、各監査役はこれに従い、定期的に各業務執行部門、グループ会社の監査を実施するとともに、取締役会をはじめ重要な会議に出席し、的確な状況の把握と意見具申を行い取締役の職務執行状況の監査機能の充実に図っています。

サステナビリティ委員会

企業の中長期的な持続可能性に関する課題に対して、経営環境、企業価値への影響等を踏まえ、グループ全体のサステナビリティ活動を推進することを目的として、サステナビリティ委員会を取締役会の直下の組織として設置。サステナビリティに係る重要事項はサステナビリティ委員会にて審議を行ったうえで定期的に取締役会に報告を行っています。

内部監査

「内部監査室」を設置し、カワイグループの業務活動全般に関して、業務執行が適法、適正かつ合理的に行われているかどうかを監査するとともに、会社資源の活用状況、法令・社内規程の遵守状況についての監査を行っています。

内部統制システムに関する基本的な考え方

カワイでは「KAWAI Philosophy」を制定し、業務運営の指針としており、併せて中期計画に掲げた目標の達成に向けて、各組織が予め定められた役割に従い、法令や定款に則って効率的に戦略遂行できる体制構築を目指しています。

また、法律問題につきましては、分野ごとに恒常的に複数の法律事務所と顧問契約を締結した上で適法性の確保に努めています。

内部統制システムについては、企業価値向上のためのコーポレート・ガバナンスの一環としてその重要性を認識し、2006年5月12日に取締役会で決議しました「内部統制システムの構築に関する基本方針」を、2015年5月1日から施行された改正会社法の改正主旨に合わせ、2015年5月14日開催の取締役会で一部改定することを決議しており、この決議に基づき内部統制システムの整備を推進しています。

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

反社会的勢力を社会から排除していくことは、治安対策上重要なことであり、企業にとっても社会的責任の観点から必要であり、また、反社会的勢力が従業員を含めた企業自身に多大な被害を生じさせるものであることから、企業防衛の観点からも必要なものです。このような観点から、当社は反社会的勢力による被害を防止するため、コンプライアンス体制及び内部統制システムの一環としての体制整備に努めています。

取締役会の実効性評価

当社は、コーポレート・ガバナンスの実効性を高めるための取り組みの一環として、取締役会の運営の改善・機能向上を目的に、取締役会の実効性に関する評価を毎年実施しております。2025年3月期に実施しました実効性評価について、以下のとおり概要をお知らせいたします。

■ 実施内容

取締役会を構成する取締役・監査役（全12名）を対象にアンケート形式で調査を実施しました。2025年3月期においては、前年に引き続きその実効性を中立的・客観的に検証するため、外部機関を活用したアンケートを実施し、その集計結果に基づく分析報告を踏まえ評価を行いました。

■ 分析・評価結果

- ・全体として概ね肯定的な評価が得られており、取締役会の実効性が確保されていると判断しました。
- ・一方で、全体的な評価は良好であるものの、前回と比較して評価が大きく変わった項目はなく、課題とする項目の改善が引き続き必要であることを確認いたしました。
- ・改善が必要な課題としては、経営戦略や経営上の重要な項目に関する課題や取り組みに対して、更なる議論の深化を求める意見や、取締役会への報告に関してもう少し重要項目に絞った報告をしてはどうかという意見が社外役員を中心に見られました。
- ・また、取締役会の開催回数が他社比較で少ないとの意見が社外役員から上がっており、経営上の重要な課題について更なる議論を行うためにも、取締役会の運営改善が必要であることを確認いたしました。
- ・取締役会における議論について、社外役員から活発な意見が見られる反面、社内取締役に対しても活発な議論を求める意見が社内外の役員から見られました。
- ・上場会社を取り巻く環境が日々変化する中で、役員に求められる知識や情報に関するトレーニングの機会提供や、社外役員に対しての定期的な工場やマーケットの視察を望む意見を確認いたしました。

■ 実効性向上へ向けた今後の取り組み

本実効性評価を踏まえた今後の取り組みについては、経営課題に対する議論の深化に向けて、取締役会の開催回数や議案・報告事項等のテーマ設定の工夫など、運営面における改善や、役員に求められる役割と責務を果たすために必要とする知識の習得機会に対する支援体制の強化等、取締役会の実効性を高める取り組みを継続的に進めてまいります。

株主との対話

当社は、コーポレート・ガバナンス基本方針において「株主との建設的な対話に関する方針」を掲げており、株主総会のほか、決算説明会、中期経営計画説明会、個別 IR ミーティングなどを通じて、建設的な対話を実施しております。

内容	回数	対応者		対象
		社長	IR担当	
決算説明会 (2024年 5月・11月開催)	2 回	●	●	証券アナリスト、機関投資家（国内・海外）、その他
中期経営計画説明会 (2025年 3月開催)	1 回	●	●	証券アナリスト、機関投資家（国内・海外）、その他
個別 IR ミーティング	61回	●※	●	証券アナリスト、機関投資家（国内・海外）、その他

※ 計 8 回出席

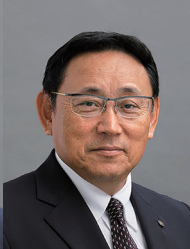
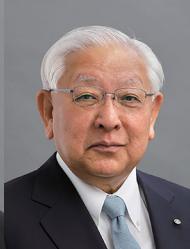
▶ 株主との対話

<https://www.kawai.co.jp/ir/dialogue/>



取締役スキルマトリックス

当社では、取締役会全体として「企業経営」「法務・リスク管理」「財務・会計」「製造・技術」「営業マーケティング」「グローバル」および「業界知識（音楽・楽器）」の知識、経験、能力をバランスよく備えることで、変化の激しい経営環境に迅速・的確に対応しスピーディーな意思決定を目指しています。

						
氏名	河合 健太郎	牛尾 浩	箕輪 匡文	森 直樹	後藤 康雄	村松 奈緒美
役職	代表取締役社長	取締役副社長	専務取締役	常務取締役	社外取締役	社外取締役
期待される知識・経験・能力						
企業経営	●	●		●	●	
法務 リスク管理	●		●		●	●
財務・会計	●				●	
製造・技術	●	●	●			
営業 マーケティング	●			●		
グローバル	●	●	●	●		
業界知識 (音楽・楽器)	●	●	●	●		

リスクマネジメント

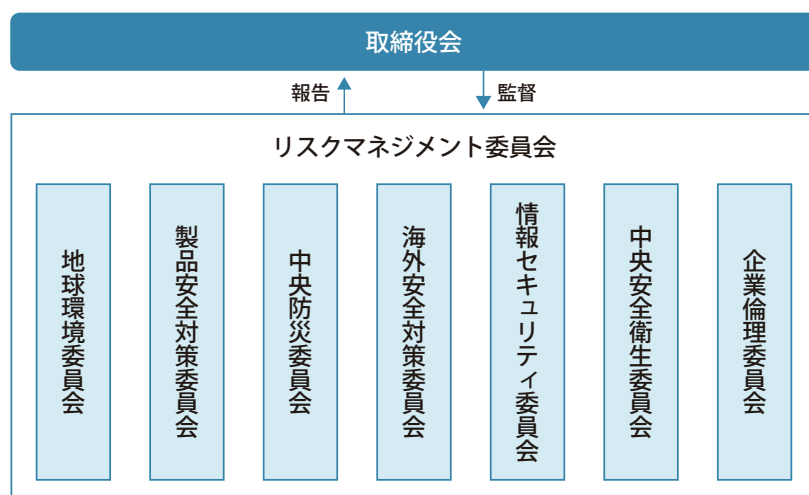
リスク管理体制

カワイのリスク管理体制は、業務執行に伴うリスクを未然に防止することを第一とし、リスクが顕在化した場合には、社会的、経営的な影響を最小限にとどめるため、職制により組織的に対応するものから必要に応じグループ全体を対象とした委員会等を設置するなど、機動的な対応に努めています。

リスクマネジメント委員会

リスクマネジメント委員会は、カワイグループ全体のリスクへの対応のために、規程類の整備、運用状況の確認、要員の訓練、研修等を企画実行するとともに全社リスク管理状況を定期的に取り締役に報告しています。

傘下に下記分野別の各委員会を設置するとともに、不測の事態が発生した場合には、「緊急対策本部」をただちに設置し、迅速な対応と損害の拡大の防止にあたるものとしています。



地球環境委員会

「地球環境憲章」、「カワイ環境方針」、「グリーン調達ガイドライン」、「木材調達ガイドライン」等を制定し、また環境に関する法令の遵守はもとより環境保全の目的・目標を定め環境汚染によるリスクの軽減に努めています。

製品安全対策委員会

万が一、市場に出た当社の製品に安全上の不具合があり、それが原因でお客様の生命身体に危害が及んだり、その可能性があるかと判断されるときに、お客様への告知、行政機関への報告、製品の回収といった対策を迅速に実行し、お客様への被害を最小限に止める諸活動を行っています。

中央防災対策委員会

カワイグループにおける火災、風水害、その他の災害の予防対策確立及び災害発生時の被害を最小限に止めるための諸活動を行っています。

海外安全対策委員会

海外子会社、海外駐在員並びに海外出張者のリスク管理を行っています。

情報セキュリティ委員会

情報資産の機密性、完全性、可用性の確保、維持を全社的な立場で統括管理しています。

中央安全衛生委員会

カワイグループの従業員の安全衛生意識の高揚を図り、災害及び疾病を予防するための諸活動を行っています。

企業倫理委員会

コンプライアンスに関する基本方針の審議を行い決定し、その方針の進捗状況を確認したり、コンプライアンスに関する規程・マニュアルなどの制定を行っています。またその他に法令、企業倫理に関わる違反案件があったときは、その応策の協議を行い経営層への具申を行います。

災害リスクへの対応

カワイは、大規模地震等の緊急事態が発生した際に、従業員の安全を確保し、事業資産への被害を最小限に食い止め、当社の事業を継続させ、いち早く全ての事業を完全に復旧させるために、平常時や緊急時における様々な対策や方法をまとめたBCP(事業継続計画)を策定しています。BCPを遂行する上で最も重要なことは、人命の安全確保とその確認です。そのため、安否情報確認システムを導入するとともに、防災ハンドブックを発行しています。

■ 安否情報確認システム

災害発生時に、迅速に従業員の安否確認をすることは重要です。カワイでは、大規模地震等の災害発生時に自動的にメールを一斉送信し集計する、安否情報確認システムを導入しています。定期的に従業員に向けて訓練を行うことで、有事の際に迅速に対応できるよう努めています。

■ 防災ハンドブック

大規模地震等の災害に備え、災害に関する知識や情報、日頃の備えや災害発生時の対応などについてまとめた、防災ハンドブックを発行しています。このハンドブックではBCPについても分かりやすく説明することで従業員への周知に努めています。

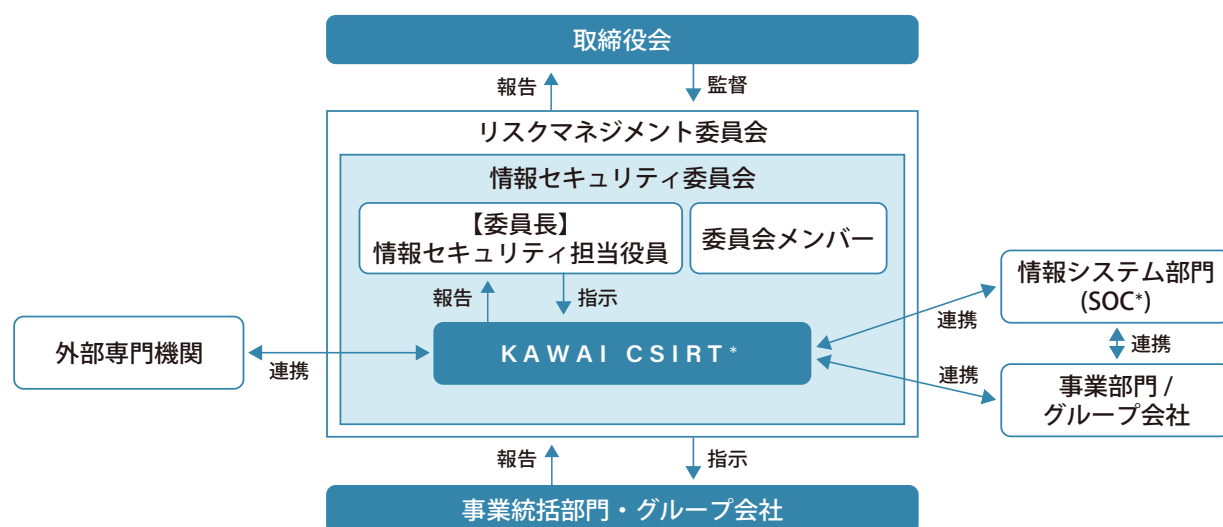


情報セキュリティへの対応

カワイグループは、情報セキュリティに関わるリスクを、重要な経営リスクのひとつと認識しています。情報資産の適切な保護と正しい利用のために情報セキュリティ基本方針を定め、情報セキュリティ対策に取り組んでいます。

■ 情報セキュリティ体制

カワイグループは、情報セキュリティリスクに対し適切な管理体制を構築し安全確保に努めています。



*CSIRT (Computer Security Incident Response Team)：情報セキュリティインシデントが発生した際の対応体制

*SOC(Security Operation Center)：24時間365日体制でネットワークやデバイスを監視するセキュリティ組織

コンプライアンス

コンプライアンスに対する基本的な考え方

カワイグループでは、コンプライアンスを単なる法令等遵守にとどまらず、会社内の規程などを守り、社会規範を含んだ倫理規範の実践により社会の信頼を得ていく事と位置づけ、全従業員が取り組むコンプライアンス経営を推進しております。具体的には法令遵守に加え、社会的な規範を包含した「カワイ倫理規範」、「倫理行動規準」を制定するとともに、外部有識者（弁護士）を加えた企業倫理委員会を設置しています。

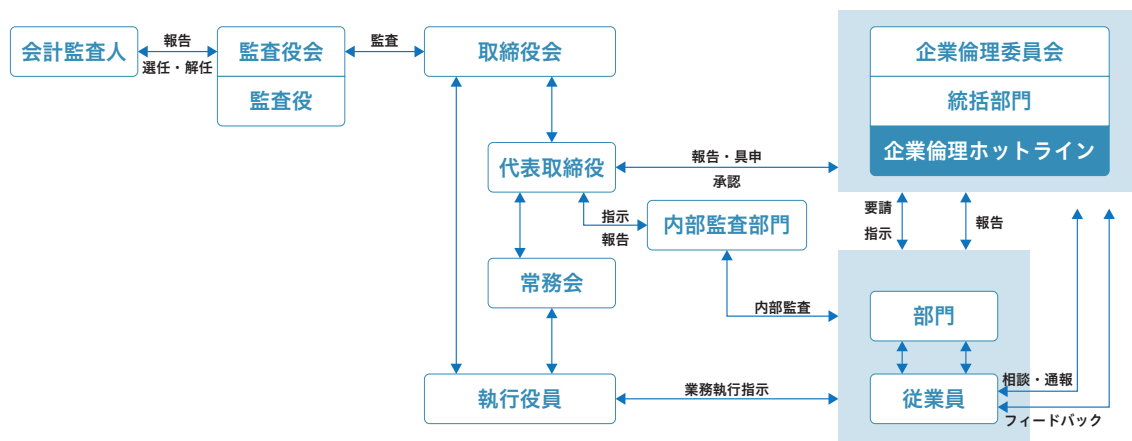
■ カワイ倫理規範・倫理行動規準（要旨）

- ・ 法令および社内既定の遵守
- ・ 反社会的行為の禁止
- ・ 事実と反する広告宣伝の禁止
- ・ 高い道德観と倫理観に基づく行動
- ・ 地球環境の保全
- ・ 企業情報の適切な開示
- ・ 違法・反倫理的取引の禁止
- ・ 顧客満足度の向上
- ・ インサイダー取引の禁止
- ・ 業務活動と私的活動の峻別
- ・ 自由競争および公正取引
- ・ 会社財産の管理および適正な使用
- ・ 基本的人権と個人の尊厳の尊重
- ・ 購入先・協力先・販売店との公正な取引
- ・ 知的財産権の保護
- ・ 差別・ハラスメントの禁止
- ・ 贈収賄および腐敗行為の禁止

コンプライアンス推進体制

カワイでは、コンプライアンスに関する協議、諮問機関として企業倫理委員会を設置しコンプライアンス経営の推進に努めています。企業倫理委員会は、コンプライアンス上の問題に関する基本方針の決定、その推進状況の把握、重大な法令違反案件についての対応策の協議と社長および取締役会への具申、企業倫理統括部門への指示を行います。

また、企業倫理に関する統括部門では、違法行為等の速やかな認識と是正のために「企業倫理ホットライン」を運営するとともに、各種コンプライアンスプログラムの企画と教育により従業員への啓蒙を進めています。



企業倫理ホットライン

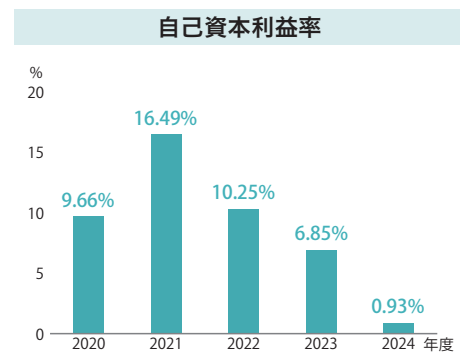
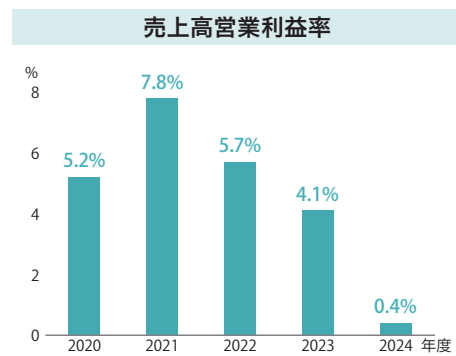
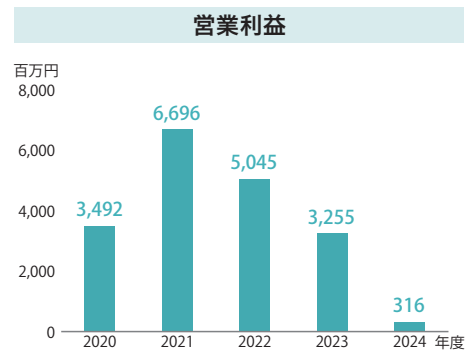
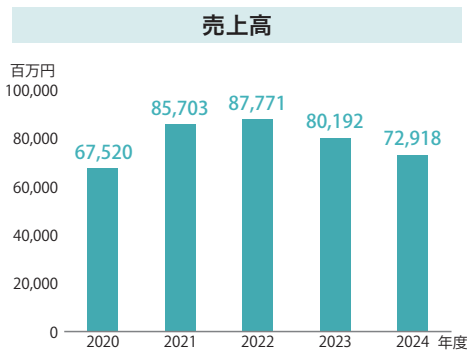
カワイでは、コンプライアンスに関する違反の早期発見と解決を図るために、内部通報窓口として「企業倫理ホットライン」を設置しています。通報は匿名も可能とされており、この利用により通報者が不利益な扱いを受けることのないよう「企業ホットライン運用基準」に定められています。

コンプライアンス教育と啓蒙

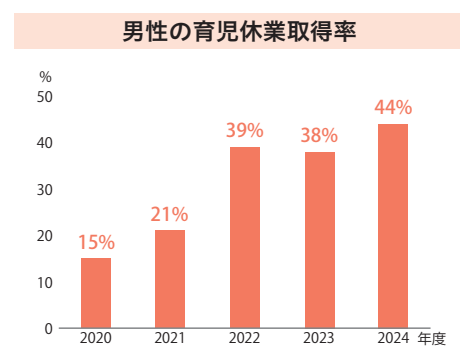
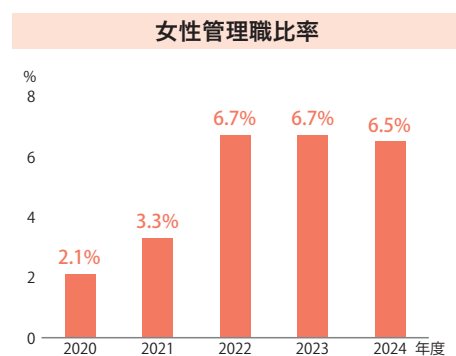
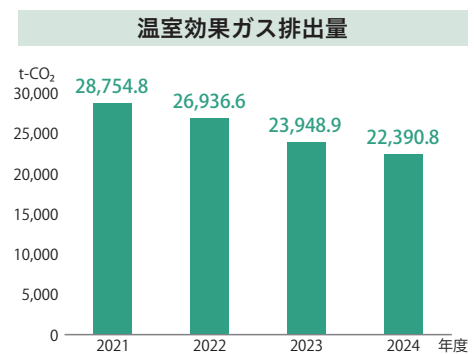
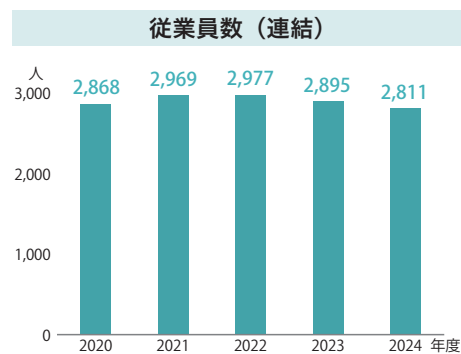
カワイでは、従業員への教育・啓蒙として「企業倫理月間（10月）における啓発活動」「企業倫理ニュースの毎月発行」「コンプライアンスリスク洗い出しチェックリストによるセルフチェック」「コンプライアンス研修」等を実施することでコンプライアンス意識の向上に努めています。

財務・非財務データ

財務データ



非財務データ



社会とともに歩む ～地域・文化・人をつなぐ活動～

持続可能な地域社会と文化の創造

地域や文化、人々をつなぐさまざまな活動を通じて、環境・社会・教育の側面から持続可能な社会づくりに取り組んでいます。

Shigeru Kawai 付属品ボックスにリサイクル可能な植物性繊維（ウルTRASエード®*）を使用



Shigeru Kawai グランドピアノ付属品

持続可能なものづくりの一環として、Shigeru Kawai グランドピアノの付属品ボックスには環境配慮型素材を採用しています。このボックスには、上質なスエードのような質感を持ち、且つ植物由来の再生資源を粗原料の一部に使用した人工皮革を用いており、当社シリーズの最高峰にふさわしい高級感と、持続可能な社会への貢献という2つの価値を両立させています。今後は、他のシリーズにおいても環境に配慮した取り組みを進め、環境との調和を大切にしながら音楽文化の発展に努めてまいります。



ボックス



内容物



浜松駅コンコースでも使用



コンコースの壁面

花のイラストのストリートピアノを展示



「浜名湖花博 2024」に協力し、浜名湖ガーデンパーク会場にて花のイラストを施したラッピングピアノをストリートピアノとして展示しました。

▶浜名湖花博 2024 ラッピングピアノを展示開始
(ニュースリリース)

<https://www.kawai.co.jp/news/20240408/>



地域との協働



本社周辺の道路の清掃活動

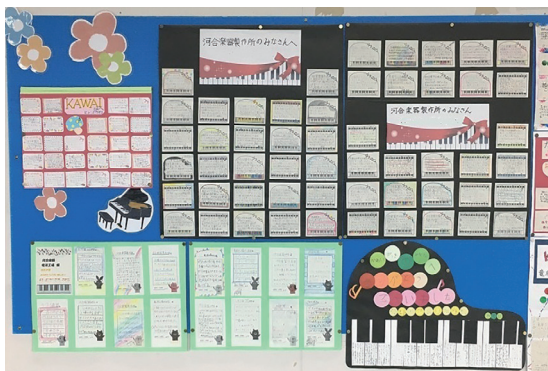


遠州灘防潮堤防災林の整備

浜松市の道路・河川里親制度に参加し、本社周辺道路の清掃活動を行っています。また、静岡県と協定を結び防災林の整備にも取り組んでいます。



工場見学の受け入れ



竜洋工場では、地域の小中学生や高校生、その他多くの方々の見学を受け入れています。見学ではグランドピアノの組立工程をご覧いただくことができます。

見学後の小学生からは嬉しい感想をいただいています。

▶工場見学は当社 Web サイトから
ご予約いただけます

<https://www.kawai.jp/ryuoyofactory/>



フードドライブ事業に賛同



遠州鉄道株式会社と明治安田生命保険相互会社が共同で展開するフードドライブ事業に賛同し、本社構内に専用の回収ボックスを設置しました。

▶本社構内に回収ボックスを設置
(ニュースリリース)

<https://www.kawai.co.jp/news/20250612/>



「共助の和 Project」に賛同



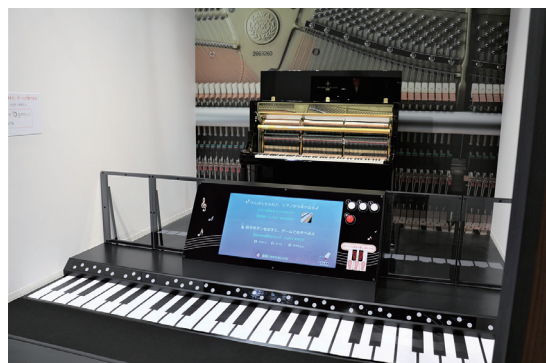
リコージャパン株式会社静岡支社が静岡県中西部で推進している「共助の輪 Project」に賛同し、社有車 100 台へ『シェアする防災セット』を配備いたしました。

▶社有車 100 台への防災備蓄を開始
(ニュースリリース)

<https://www.kawai.co.jp/news/20241129/>



浜松市科学館への協力



浜松科学館 河合楽器ブース「ピアノアクション」

浜松科学館の開館当初より常設展示に協力しており、2022年にはお子様が遊びながらピアノの鍵盤の動きや構造を学べる展示にリニューアルいたしました。

▶浜松科学館カワイ展示ブースリニューアル
(ニュースリリース)

<https://www.kawai.co.jp/news/20220907/>



会社情報

会社概要

社名	株式会社河合楽器製作所	本社	静岡県浜松市中央区寺島町200番地
創立	1927年(昭和2年)8月9日	設立	1951年(昭和26年)5月15日
資本金	7,122 百万円	従業員数	連結 2,811名 単独 1,270名

カワイグループ拠点一覧



編集方針

内容

本レポートでは、当社の ESG (環境・社会・ガバナンス) における取り組みをはじめとした、サステナビリティに関する活動について報告しています。カワイグループの事業内容の詳細はウェブサイトをご参照願います。

対象

お客様、お取引先、従業員、株主・投資家、地元住民・NGO、行政・国際機関など全てのステークホルダーの皆様を対象としています。

報告対象機関

2024年度(2024年4月～2025年3月)を主体としています。一部重要な事項につきましては対象期間以外の情報を含んでいます。また、集計方法の見直しなどにより既報データを一部修正し掲載した項目・数値があります。

報告対象組織

(株)河合楽器製作所 本社 / 竜洋工場 / カワイ精密金属(株) / (株)カワイキャスティング / (株)カワイハイパーウッド
※一部その他のグループ会社の活動についても報告しています

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」/ ISO26000「社会的責任に関する手引」

第三者意見



東京工業大学名誉教授
中崎 清彦 先生

本年の報告書は2025年3月に発表した「第8次中期経営計画」について、「KAWAI 十年の計」、「KAWAI Philosophy」、「サステナビリティ経営」に重点を置いてわかりやすく説明する内容になっている。

「KAWAI 十年の計」においては、中期経営計画が従来の3年枠を超え、10ヶ年の長期スパンで策定されている。この年限の拡張は、短期的な成果にとらわれることなく、企業としての持続的成長と未来への投資を明確に見据えた意思表示と考えられる。さらに、その計画は図表を活用し、コンパクトなダイジェスト版としてまとめられているため、全体像を一目で俯瞰できる構成となっており、複雑な戦略を誰もが理解しやすい形に整理する工夫は、報告書の説得力を高めている。長期的な視野とわかりやすさを両立させた今回の試みは、経営の透明性を高めるだけでなく、全社が一丸となって未来へ挑む力強い指針となるものと思われた。

「KAWAI Philosophy」においては、社長自らの会社発展のための哲学が複数ページにわたり丁寧に示されている。一般に日本人は課題の具体的な解決や実務的な遂行に卓越した力を発揮する一方、理念や哲学を体系立てて言語化することは必ずしも得意ではないといわれてきたが、そのような中で、長期的な視点に立った経営哲学が明確に提示されたことは、極めて意義深いことといえる。「KAWAI

Philosophy」は、社員一人ひとりの指針となるばかりでなく、社外に対しても「KAWAI」の存在意義を明確に示すものとする。今後、報告書に示された哲学が、日々の実践や具体的な施策へと結びつき、さらなる企業の発展、「サステナビリティ経営」につながることを強く期待される。

なお、本年の報告書においては、企業が優先して取り組むべき重要課題（マテリアリティ）が昨年度に引き続き明示されているのみならず、さらに一歩進んで具体的な数値目標が掲げられている点が特筆される。重要課題を抽象的な理念や方向性にとどめるのではなく、定量的な目標として明文化することは、企業としての説明責任を果たすとともに、社内外に対して目標達成に向けて積極的に関わり、責任をもって最後まで成し遂げることを約束することにつながると考える。これにより、進捗の測定と検証が可能となり、経営の透明性と実効性が一層高まることが期待される。報告書に示された数値は、単なる指標ではなく、挑戦を加速させ、未来を切り拓く原動力になると思われる。

本報告書を通じて示された社長の哲学、数値目標をともなう積極的な姿勢、そして長期的な視野に立った経営計画の明示は、変化の激しい時代を生き抜く企業の真の強さにつながるものと考えられる。これらの取り組みを礎に、「KAWAI」がさらなる成長を遂げ、優れた会社として長く存続されることを期待する。

第三者意見をうけて

この度は、本レポートに対する貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございます。中崎先生からのご意見は、私たちにとって大きな励みであるとともに、今後の取り組みに対する責任を改めて自覚する契機となりました。

本年度のレポートでは、第8次中期経営計画である「KAWAI 十年の計」、新たに制定した「KAWAI Philosophy」、「サステナビリティ経営」についてわかりやすく示すこと、そしてマテリアリティに関する具体的な数値目標を明示することに努めました。これらの点をご評価いただけたことは、当社にとって大きな自信となり、持続可能な成長への取り組みを一層加速させる原動力となります。

また、経営哲学を体系的に提示したことが意義深いとのことご意見は、私たちが目指すサステナビリティ経営の方向性をご理解いただいた証であり、今後、日々の実践や具体的な施策へとつなげていく強い決意を新たにいたしました。

今後は、いただいたご意見を真摯に受け止め、経営哲学の実践と重要課題の進捗管理を着実に進めるとともに、透明性の高い情報開示に努めてまいります。これからも改善を重ね、持続可能な企業経営を推進してまいります。

(サステナビリティ委員会 事務局)

KAWAI



株式会社 **河合楽器製作所**

サステナビリティ委員会

〒430-8665 静岡県浜松市中央区寺島町200番地

TEL : 053-457-1252 FAX : 053-457-1300

URL : <https://www.kawai.co.jp/>

UD
FONT